

消 防 年 報

令和7年版消防統計

中津川市消防本部

目 次

中津川市消防のあゆみ	1～30		
【1 消防情勢】		【3 火災統計】	
中津川市勢の概況	31	火災概況	59
比較表	32	火災覚知別件数表	59
令和7年度当初予算	32	地区別件数表	59
市一般会計予算(当初)と消防費との比較	32	月別件数及び損害額表	60
市民の消防費の割合	32	過去10年間の火災発生件数	61
中津川市消防本部機構(組織)	33	過去10年間の火災損害額状況表	61
中津川市消防団機構(組織)	34	時間別火災発生件数	62
事務分掌	35	署別火災件数	62
基準消防力と現有消防力の比較	36	出火原因別件数及び損害額	63
署・団消防機械配置状況	37～38	【4 救急救助統計】	
消防吏員配置状況	39	救急種別出場件数	64
消防吏員階級別年齢調	40	救急事故発生場所別搬送人員	65
消防吏員勤続年数調	41	救急事故種別出場・搬送件数及び搬送人員	65
消防吏員諸手当支給状況	42	地区別救急出場件数	66
消防吏員特殊技術資格所有者調	42	年齢別搬送人員	66
消防吏員教養実施状況調(現職)	43	程度別搬送人員	67
消防吏員居住地状況調	44	時間別出場件数	67
消防団員報酬表	45	救急件数の事故種別及び割合	68
消防団員諸手当支給状況	45	月別救急出場件数	68
階級別団員数	45	曜日別救急出場件数	69
消防団長	45	過去5年間の救急出場件数	70
消防団員教育実施状況表	45	地区別救急出場状況	71
消防団員勤続年数調	46	事故種別救助出場・活動件数	72
年齢別消防団員数調	46	主な救助活動	72
消防団員表彰	47	【5 気象統計】	
岐阜県消防操法大会出場分団一覧表	48	月別降雨量統計表	73
幼年消防クラブ加入状況	49	月別気象統計表	74
女性防火クラブ状況	50		
少年消防クラブ加入状況	50		
通信施設現勢表	51		
水利施設表	52		
【2 予防統計】			
地区別危険物製造所等の数	53		
危険物製造所等の数並びに施設指導状況	53		
危険物製造所等の各署許可・検査状況	54		
危険物仮貯蔵所その他届出状況	54		
火薬類取締法に基づく許可件数	55		
高圧ガス保安法(施設件数)	55		
液化石油ガス法(販売事業者数)	55		
各種届出の状況	56		
工事別建築同意件数表	57		
地区別建築同意件数表	57		
建築物用途別同意件数表	58		

は し が き

この統計は、令和7年中における中津川市の消防状況を収録し、併せて累年のこれと比較対照し、将来の消防行政の資料にすることを目的として編さんしたものです。

なお、この『消防年報』諸表は特別の記事を除いては、令和7年12月末日をもって収録しました。

中津川市消防本部

市章



近村合併で市域が輪のように拡がり、しかもこれが団結の和を示し、これによって市勢が一段と躍進をみることを象徴したものです。

市民憲章

わたくしたち中津川市民は、

誇りをもって自分の仕事にはげみましよう
楽しい家庭、あかるい職場を育てましよう
きまりを守り、住みよい社会にいたしましよう
文化を育て、豊かな郷土をつくりましよう
自然を愛し、美しいまちを築きましよう

中津川市消防のあゆみ

中津川市は、中山道の宿場町として木曾及び飛騨地方の交通ならびに物資集散の要所として発達してきた街である。

そのなかで消防は、施設及び人員を活用して、住民の生命、身体及び財産を保護する任務をもって常に犠牲的精神に培われて郷土の守りとなり、郷土と共に生まれ、郷土と共にあるてきた。

明治17年		落合村に私設消防組が、手押ポンプ1台と4部制60名の編成をもって発足した。
明治18年		千旦林村に私設消防組が、207名をもって発足した。
明治19年	10月	中津町は、間半兵衛を発起人として、いろは3組（本町組をい組、新町組をろ組、茶屋坂組をは組）の私設火消組を設立し、各々組員30名、腕用ポンプ1台、とび、梯子が整備された。
明治20年		茄子川村に私設消防組が、127名で発足した。
明治29年	2月	落合村は、公設消防組に改革し、組頭に鈴木清通が就任。
明治29年	7月 3日	時世の推移と、世論の要請により中津町いろは組は、公設となり、中津町消防組と改革され、組頭に間鷺郎が就任。
明治31年	4月 1日	駒場及び手賀野の両村の合併、中津町の区域の増大により組員は200名となり、腕用ポンプ5台が常備された。
明治40年	10月29日	神坂村は、組員195名をもって、公設消防組が発足した。
大正 4年		中津町は組頭以下350名、他に警防隊50名、機械はガソリンポンプ1台、腕用ポンプ7台が常備された。
大正 5年	1月24日	神坂村消防組は、馬籠大火の際の功により、長野県警察部長から金馬簾一條の使用を認許。
大正 6年		中津町は、岐阜県知事から模範消防組として表彰の栄誉を受けた。
大正 9年	5月	茄子川の消防組を、公設消防組に改組した。
	6月 1日	苗木町は、各地域で区長を中心に消防活動を行ってきたが時世を推移し、公設消防組を設立した。
大正 9年	6月	千旦林の消防組を公設消防組に改組した。
	12月17日	阿木村は、2部制をもって公設消防組の設立をした。
大正11年	3月23日	神坂村消防組は、大正10年12月21日吾妻村大火の際消防に従事し、組員一致協力、職責を尽くした功勞により長野県警察部長から金馬簾表彰を受賞。
大正14年	7月22日	中津町は、金馬簾表彰を受賞。
昭和 2年		中津町は、ガソリンポンプ「ルノー」を配置。
昭和 4年	4月 1日	千旦林組と、茄子川組が統合し、坂本消防組となった。

昭和 4年		中津町は、ガソリンポンプ「ルノー」を配置。
昭和 7年	4月	落合村消防組は、岐阜県知事から金馬簾表彰を受賞。
	11月23日	中津町消防組は、金馬簾表彰を受賞。
昭和 9年	3月15日	苗木町消防組、金馬簾表彰受賞。
	5月20日	阿木村消防組、金馬簾表彰受賞。
昭和13年	12月	坂本村消防組、金馬簾表彰受賞。
昭和14年	4月 1日	国の施策に伴い、消防組は全国一斉に警防団として発足した。 中津町警防団（団員511名、9分団）苗木町警防団（団員180名、本部、3ヶ分団）坂本村警防団（団員189名、6部）落合村警防団（団員122名、7班）阿木村警防団（団員232名、3部）神坂村警防団（団員200名、本部、2部）
昭和22年	4月30日	消防団令が公布され、消防団令の附則で警防団が廃止、新たに全国の市町村に自主的、民主的な消防団が組織された。
	10月 5日	苗木町消防団創設。
	10月 8日	阿木村消防団結団式。
	10月 9日	落合村消防団結団式 苗木町消防団発会式。
	10月11日	中津町消防団発団式。
	12月23日	国は消防組織法を新たに公布し施行期日を昭和23年3月7日とした、長い伝統と歴史をもったこれまでの消防に画期的改革が行われた。ここに消防は、自治体消防として新しく発足した。
昭和23年	4月 1日	中津町は、自治体消防として従来の9ヶ分団制を廃止、本部と4ヶ分団、定員263名となった。
		（消防本部の創設）
昭和24年	5月 1日	中津町消防本部設置規則が公布され、ここに中津町消防本部が誕生し、消防業務を行うことになる。 初代消防長に町長市岡諒介就任。
	11月 1日	消防長市岡諒介辞任により間良平就任。
		（常設消防署創設）
昭和25年	4月 1日	中津町消防職員定数条例の一部改正条例公布、消防吏員4名で中津町常設消防署として即日中津町消防会館において執務を開始した。
	4月21日	名古屋市振興自動車株式会社所有の元軍用のものを購入し、消防署1号車として配置。
	5月 2日	中津町消防団は、優良消防団として岐阜県知事より金馬簾表彰を受賞。
	6月	中津町郷原幸蔵氏よりシボレー（1935年式）の寄贈を受け、本州製紙の協力によって人員輸送用消防車に改装、中津町消防団南分団に配置。
	6月 1日	消防吏員1名増員し、計5名となる。

昭和25年 9月 4日 消防吏員3名増員し、中津町消防団中分団より毎日2名の応援を得て、消防長以下10名となる。

(消防署創設)

昭和26年 4月 1日 苗木町の合併、新しく中津川町の誕生により中津川町消防本部のもとに消防署が設置された。

5月 1日 常設消防団員の4名を新しく正規の消防吏員として登用し14名となる。

8月14日 ダイハツ自動三輪車にV8エンジン、再成三段押しタービン積載艤装消防車購入、苗木第1部に配置。

10月10日 日本機械株式会社で艤装した、いすゞシャーシバランスタービン1トン積水槽付(放水銃)速消車を購入、消防署1号車として配置。

昭和27年 4月 1日 中津川町が新しく中津川市として誕生。

5月 1日 従来の消防団を改組して、5ヶ団に改め、連合消防団制を採り、連合消防団長に篠田初太郎就任。

昭和28年 9月25日 恵東産業株式会社からトヨタ貨物自動車1台を購入し、中津第4消防団に輸送車として配置。

11月26日 中津第1消防団及び第2消防団は、県消防協会長の竿頭綬表彰を受ける。

昭和29年 3月31日 連合消防団長篠田初太郎退任。

4月 1日 中津川市消防団は従来の5ヶ団編成の機構を改組し、新しく中津川地区及び苗木地区において、各々消防団を編成して、中津消防団長に丸山敏治、苗木消防団長に後藤文男就任。

7月10日 坂本村の合併により、坂本消防団を中津川市消防団として受け入れ、定員180名で坂本消防団長に小栗峰郎就任。

8月 6日 中津川市において、検閲官に岐阜県知事武藤嘉門氏を迎え、恵那地区機動連合演習を実施する。

9月 落合村消防団金馬簾表彰を受賞。

10月15日 消防長兼消防署長間良平辞任により、3代目消防長事務取扱に市長市岡諒介、2代目消防署長に今井兼光就任。

昭和30年 2月14日 消防長事務取扱市長市岡諒介辞任により、4代目消防長事務取扱として、市長竹村寿吉就任。

4月 1日 プリンズ中型車を千代田ポンプ製作所で2段バランスポンプ車に艤装購入する。

7月15日 中津川市消防団消防音楽隊を隊員22名をもって編成する。

9月 3日 坂本消防団長小栗峰郎辞任のため、団長に勝 豊就任。

9月20日 合同物産株式会社よりダッチブラザーズ(ウエボンキャリア)三段バランスタービン中型車購入、中津第1部へ配置。

10月 1日 苗木消防団は成績優秀をもって金馬簾表彰を受賞。

	10月 4日	4月1日に購入したプリンス中型消防車を坂本消防団へ配置
昭和31年	9月28日	消防長事務取扱市長竹村寿吉辞任により、5代目消防長事務取扱に助役柘植八郎、消防署長今井兼光辞任により3代目消防署長に小木曾幸雄就任。
	9月30日	落合村の吸収合併に伴い、落合消防団を中津川市消防団として受け入れ、落合消防団長に吉村勝輔就任。
	10月 1日	優良消防団として坂本消防団が金馬簾表彰を受賞。
昭和32年	6月10日	中津川市消防職員等賞じゅつ金条例制定。
	11月 1日	阿木村が中津川市に合併し、阿木消防団を中津川市消防団として受け入れ、阿木消防団長に小栗浩就任。
昭和33年	2月11日	中津消防団は、成績優秀により、日本消防協会長表彰による竿頭綬を受賞。
	4月	落合消防団長吉村勝輔退任により、団長に栗谷本芳一就任。
	4月 1日	阿木消防団長小栗浩退任により、団長に後藤一枝就任。
	5月10日	消防本部及び消防署を旧自治警察庁舎へ移転する。
	10月15日	長野県西筑摩郡神坂村の越県合併により、神坂村消防団を中津川市消防団として編入する。神坂消防団長に島崎庄一就任
		中津川市消防団は中津、苗木、坂本、落合、阿木、神坂の6ヶ団となり、定員822名を数えることとなった。
		ここで、中津川市消防団長丸山敏治を連合消防団長として、中津川市消防団は6団により運営されることとなった。
昭和34年	1月	森田ポンプ工業株式会社からトヨタ自動車を艦装し、落合第3部へ配置。
	2月20日	中津川市消防長事務取扱助役柘植八郎辞任により、6代目消防長に小木曾幸雄就任、署長を兼ねることになった。
	9月 1日	町村合併に伴う中津川市の中津、苗木、坂本、落合、阿木、神坂の各消防団が統合され、中津川市消防団として発足した。中津川市消防団は、中津分団、苗木分団、坂本分団、落合分団、阿木分団、神坂分団の1団6分団制とする。
		中津川市消防団長に丸山敏治就任。
昭和35年	7月16日	中津分団第1部及び苗木分団にニッサンジープ消防車を配置
	11月28日	中津川市危険物安全協会発足。
昭和36年	4月 7日	いすゞ自動車(3mシャーシ)を森田ポンプ工業株式会社において艦装(タンク水1,500ℓ)購入、消防署1号車(従来の1号車を2号車、2号車を3号車)として配置。
	4月13日	中津川市消防団音楽隊発足5周年記念行事として、市中行進及び一般公開大演奏会が開催された。
	4月30日	岐阜トヨタ株式会社から消防団輸送車として普通四輪車を艦装購入、中津分団第4部に配置。
	12月16日	中短波陸上無線電話・基地局1基・移動局2基を設置し運用

		開始。
昭和37年	3月26日	中津川市火災予防条例制定。
	4月29日	第11回岐阜県消防操法大会が中津川市会所沢グラウンドで開催される。
昭和38年	8月1日	消防長兼消防署長小木曾幸雄辞任により、7代目消防長事務取扱に市長間孔太郎、4代目消防署長に釜田政雄が就任。
	8月21日	中津川市自治体消防発足15周年記念式典が市民スポーツセンターにおいて県知事代理後藤清氏、県消防課長、県議会議長代理松浦県議、中原消防協会長を迎えて実施された。記念行事として、団旗を新調する。
	12月1日	中津川市消防団は優良消防団として、岐阜県知事より知事旗表彰を受賞。
	12月17日	中津貨物株式会社社長郷原信一氏から、いすゞ救急車を寄贈され消防署に配置。
昭和39年	8月17日	中津川市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例制定。
	12月10日	消防長事務取扱市長間孔太郎辞任により、8代目消防長事務取扱に助役佐藤知一が就任。
昭和40年	2月11日	中津川市消防団は、優良消防団として、日消協会長表彰を受賞、東京虎ノ門日消会館にて受賞の伝達を受ける。
昭和41年	11月7日	明治神宮外苑絵画館前において、日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受ける。
	11月15日	日本損害保険協会から寄贈された消防ポンプ自動車の受入入魂式が市民スポーツセンターにおいて開催され「火災保険号」と命名し、消防署に配置。
昭和42年	1月4日	中津川市行政の正常化に伴い、中津川市消防団神坂分団の山口村に所属する33名を山口村消防団へ転入、中津川市消防団定員789名となる。
	1月23日	中短波陸上無線電話を超短波陸上無線電話に更新、基地局1基・移動局3基を設置。
	3月27日	中津川市消防団員等公務災害補償条例制定。
	4月1日	中津川市連合婦人防火クラブ会員3,880名で結成される。初代会長に松田ぎん就任。
昭和43年	3月5日	消防長事務取扱佐藤知一辞任により、9代目消防長事務取扱に市長間孔太郎就任。
	5月15日	消防長事務取扱市長間孔太郎辞任により、10代目消防長事務取扱に市長西尾彦朗就任。
	8月6日	中津川市尾鳩地内マンホールで発生した事故に救急隊員として出動した千藤武彦消防士殉職する。功績により消防司令補に2階級昇進する。

	11月	9日	自治体消防発足20周年記念式典を中津川市東小学校校庭において、県知事代理、消防防災課長を迎え挙行了。記念行事として、各分団の馬簾及び分団旗を新調した。
	11月	9日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車2台購入、中津分団第2部及び中津分団第3部に配置。
	12月	1日	消防長事務取扱市長西尾彦朗辞任により、11代目消防長事務取扱に助役小池保就任
昭和44年	3月	31日	岐阜トヨタ株式会社から44年式救急車を購入し、消防署へ配置
	3月	31日	超短波陸上無線電話(移動局)1基購入し、救急1号車に設備する
	11月	5日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車1台を購入し、阿木分団に配置
	12月	1日	第15回岐阜県消防大会を中津川市市民スポーツセンターにおいて挙行する。
昭和45年	2月	9日	中津川市消防署救急隊発足。
昭和46年	3月	4日	中津川市消防本部、消防団は成績優秀により消防庁長官竿頭授表彰を受賞。
	8月	25日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車1台を購入し、中津分団第1部に配置。
昭和47年	4月	1日	消防長事務取扱助役小池保退任により、12代目消防長に丸山敏治就任。
	9月	1日	中津川市消防団長丸山敏治退任により、団長に菅井三平就任 機構改革により消防本部(署)に総務課(庶務係・整備係)警防課(予防係・消防係)救急隊の2課1隊を置く。
	9月	11日	いすゞ自動車(3mシャーシ)を森田ポンプ工業株式会社において艤装(タンク水1,500ℓ高発泡積載)購入、消防署1号車(従来の1号車を3号車、3号車を廃車)として配置
	12月	22日	宮嶋建設株式会社から消防指令車兼工作車(三菱J32ジープ)の寄贈を受け、中津川市消防団本部へ配置。
昭和48年	9月	9日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車1台を購入し、落合分団第1部に配置。
	9月	14日	岐阜県共済農業協同組合連合会から救急車(トヨタRH18V)の寄贈を受け、救急2号車として消防署へ配置。
昭和49年	8月	31日	森田ポンプ工業株式会社から消防ポンプ自動車1台を購入し、坂本分団第2部に配置。
	10月	30日	中津川市消防庁舎起工式挙行。
昭和50年	2月	12日	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受け、救急3号車として消防署に配置。
	4月	1日	消防本部(署)機構改革により総務課(庶務係・管理係)警

			防課（消防係・指導係・救急係）予防課（予防第1係・予防第2係）を編成する。
			中津川市消防協会設立、協会長に団長菅井三平就任。
昭和50年	4月	1日	消防友の会設立 初代会長に菅井大作就任。
	4月	1日	茄子川産業振興財団より消防ポンプ自動車（国研 A2 級森田公立 103KW. 140PS 級. ホイルベース 2m 級）の寄贈を受け坂本分団第1部へ配置。
	7月	11日	財団法人日本消防協会より三菱キャラバンの寄贈を受け、消防広報車として消防署に配置。
	8月	1日	中津川市消防庁舎移転。
	8月	7日	中津川市消防庁舎竣工式挙行。
	8月	10日	中津川市消防団に分団まといを配布、中津川市第1回まとい祭を挙行する。
	9月	10日	消防長丸山敏治辞任により、13代目消防長事務取扱に助役小池保就任。
	9月	23日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、神坂分団第2部に配置する。
	11月	1日	中津川市連合婦人防火クラブは岐阜県消防大会において表彰旗を受賞。
	11月	9日	岐阜県消防連合演習を中津川市において実施する。
	11月	9日	消防友の会2代目会長に篠田初太郎就任。
	11月	10日	小栗屋石油株式会社より消防化学車（いすゞ50年式ポンプ）の寄贈を受け、消防署に配置。
昭和51年	4月	1日	消防長事務取扱助役小池保退任により、14代目消防長に釜田政雄就任し、消防署長を兼ねる。
	8月	1日	4代目消防署長釜田政雄辞任により、5代目消防署長に浅野昭一就任。
	9月	17日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、苗木分団第1部に配置。
昭和52年	9月	16日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第3部に配置。
	11月	9日	日本損害保険協会から寄贈された水槽付消防ポンプ自動車の受入式を消防署において実施し「火災保険号中津川」と命名し、消防署に配置。
	12月	6日	中津川市消友会発足 初代会長に今井淳一就任。
昭和53年	3月	7日	日本武道館において、天皇陛下の御臨場を仰ぎ挙行された自治体消防制度30周年式典にて中津川市消防団は、全国代表として消防庁長官表彰旗を受賞。
	5月	28日	自治体消防制度30周年記念式典及び消防庁長官表彰旗受賞披露式典を中津川文化会館において、県知事代理、消防防災

		課長を迎え挙行した。
昭和53年	9月13日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車2台購入し、中津分団第4部と苗木分団第2部に配置。
昭和54年	2月21日	社団法人日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受け、救急4号車として消防署に配置。
	4月1日	消防長釜田政雄退任により15代目消防長に浅野昭一就任、6代目消防署長に二村勝嘉就任。
	8月7日	東海地震に係る地震防災対策強化地域に東海6県170市町村(中津川市)が指定された。
	8月7日	第2回まとい祭を挙行する。弓張提灯850個及びまとい14本を製作する。
	9月27日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、坂本分団第1部に配置。
	11月1日	第25回岐阜県消防大会を中津川文化会館において挙行する。
	12月28日	株式会社ウスイ消防より救助工作車1台購入し、消防署に配置。
昭和55年	8月21日	財団法人日本消防協会より防災用車両1台寄贈を受け、消防署へ配置。
	11月1日	当市消防団は成績優秀として岐阜県知事旗竿頭綬表彰を受賞
	11月16日	中津川市少年消防クラブ56名にて発足する。
	11月27日	東京後樂園球場において天皇陛下の御臨場を仰ぎ挙行された全国消防団百年記念大会に、当市消防音楽隊は栄誉ある演奏会に出演。
昭和56年	4月1日	消防長浅野昭一退任により、16代目消防長に菅井三平就任、消防次長に川上源一就任。
	4月1日	中津川市職員定数条例を一部改正し、消防職員3名を増員、定員46名となる。
	8月13日	夏祭りに際し天狗みこしを製作する。
	8月29日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、落合分団第3部に配置(更新)。
	10月24日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、消防署に配置(更新)。
昭和57年	4月1日	中津川市消防団長菅井三平退任により、団長に市川博就任
	5月1日	市政30周年を記念として菅井三平氏から消防本部旗の寄贈を受ける。
	5月10日	中津川市幼年消防クラブ(恵峰学園グループ)430名にて発足する。
	8月13日	夏祭りに際し烏天狗みこしを製作する。天狗の面1,000個を配る。
	8月31日	森田ポンプ工業株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、

		阿木分団第1部に配置。
昭和58年	3月7日	社団法人日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受け、救急2号車として消防署に配置。
	3月31日	消防次長川上源一退任。
	4月1日	中津川市消防団らっぱ隊発足。
	6月23日	岐阜トヨタ自動車株式会社より消防指令車1台購入し、消防本部に配置。
	7月27日	ウスイ消防株式会社より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第2部に配置。
昭和59年	9月24日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第3部に配置
	11月1日	岐阜市で行なわれた第4回岐阜県消防らっぱ競練会に出場し、準優勝の栄誉を得た。
昭和60年	1月12日	中津川市幼年消防クラブ（中津川学園グループ）293名で発足する。
	4月1日	消防署長二村勝嘉退任により、7代目消防署長に松原正就任
	8月20日	森田ポンプ工業株式会社より水槽付消防ポンプ自動車（ME-5）1台購入し、消防署に配置。
昭和61年	2月19日	社団法人日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受け、救急3号車として消防署に配置。
	8月27日	岐阜県婦人防火クラブ運営協議会指導者研修会を中津川文化会館にて実施する。
昭和62年	3月31日	株式会社ウスイ消防より、はしご付消防自動車（スーパージャイロラダー）1台購入し、消防署に配置。
	4月28日	中津川市消友会2代目会長に安江民平就任。
	6月7日	中津川市消防百年大会を挙げる。
	8月2日	第36回岐阜県消防操法大会が高富町で開催され、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
	8月5日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第1部に配置。
昭和63年	2月3日	中津川市コミュニティー消防センターを消防本部敷地内に建設する。
	3月7日	有限会社ロンドン（代表取締役菅井三平氏）より救急車1台寄贈を受け「トモエ号」と命名し、救急1号車として消防署に配置する。
	6月1日	消防長菅井三平辞任により、17代目消防長に宇野巖就任
	6月1日	警防課に防災係を増設。
	8月8日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、阿木分団第3部に配置。
	11月1日	各務原市で行なわれた第9回岐阜県ラッパ競練会において、

昭和63年	11月	1日	<p>当市消防団は準優勝の栄誉を得た。</p> <p>自治体消防40周年を記念して、当市は岐阜県消防協会総裁表彰旗を受ける。</p>
平成元年	4月	1日	定数条例の一部改正により2名新規採用し、消防職員48名となる。
		8月9日	財団法人日本消防協会より電源照明用資器材等搬送車の寄贈を受け、消防本部に配置する。
		8月30日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、坂本分団第3部に配置。
平成2年	4月	1日	消防長宇野巖退任により、18代目消防長に森研一、消防次長に松原正就任、消防署長を兼務する。
		5月29日	消防友の会長篠田初太郎辞任により3代目会長に二村勝嘉就任。
		8月5日	第39回岐阜県消防操法大会が安八町で開催され当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
		9月28日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、落合分団第1部に配置。
		11月16日	社団法人日本損害保険協会から小型動力ポンプ付水槽車（水5,000ℓ）の寄贈を受け消防署に配置。
平成3年	4月	1日	消防長森研一退任により、19代目消防長に大島修就任、消防次長に加藤良久就任、又松原正退任により8代目消防署長を兼務する。
		8月5日	第40回岐阜県消防操法大会が多治見市で開催され当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
		9月30日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、坂本分団第2部に配置。
平成4年	4月	1日	中津川市消防団長市川博退任により、団長に松田周一就任
		4月6日	坂本分署建設用地（2,891㎡）購入。
		9月22日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、神坂分団第2部に配置。
		9月22日	茄子川産業振興財団より消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け坂本分団第2部に配置。
平成5年	4月	1日	消防長大島修退任により、20代目消防長に加藤良久就任、消防次長に金子俊次就任、9代目消防署長を兼務する。
		4月1日	定数条例の一部改正により、定数51名となり1名市から転属、3名新規採用し、消防職員実員49名となる。
		8月25日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第3部に配置。
平成6年	2月	15日	中津川市消防団は、優良消防団として日本消防協会長（竿頭綬）を受賞。

	4月 1日	定数条例の一部改正により、定数61名となり7名新規採用、1名市へ転属、1名退職し、消防職員実員54名となる。
平成 6年	5月24日	消防友の会長二村勝嘉辞任により4代目会長に市川博就任。
	8月 7日	第43回岐阜県消防操法大会が大野郡で開催され当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	10月25日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、苗木分団第1部に配置。
平成 7年	4月 1日	5名新規採用、消防職員実員59名となる。
	5月27日	中津川市消防本部は、同年1月17日発生した阪神・淡路大震災の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を受賞。
	6月20日	財団法人日本消防協会より指揮広報車（緊急車仕様）1台寄贈受け、消防本部に配置。
	8月25日	第24回全国消防救助技術大会(北九州市)ロープ登はんに1名出場。
	11月20日	株式会社ウスイ消防より化学防護服2式を購入し、消防署に配置。
平成 8年	3月12日	株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、坂本分署へ配置。
	3月25日	坂本分署庁舎竣工式挙行。
	4月 1日	消防長加藤良久退任により、21代目消防長に金子俊次就任、消防次長に小原良一就任、10代目消防署長を兼務する。
	4月 1日	4名新規採用、消防職員実員数61名となる。
	4月 1日	坂本分署業務開始。分署長に加藤一義就任。
	4月 1日	機構改革により防災係が、市部局の防災環境部広報防災課へ移る。
	7月22日	財団法人日本消防協会より防火広報車1台寄贈受け、消防署へ配置。
	8月 4日	第45回岐阜県消防操法大会が中津川市中津川公園多目的広場で開催され、当市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
	11月 1日	中津川市消防団は、岐阜県知事から消防団年間優秀賞を受賞
	12月13日	有限会社伊藤自動車サービス工場より高規格救急自動車1台購入し、消防署へ配置。
	12月13日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、坂本分団第1部へ配置。
平成 9年	3月28日	菅井康義氏から連絡車の寄贈を受け、消防署へ配置。
	4月 1日	消防長金子俊次退任により、22代目消防長に松田宣男就任、消防次長に高橋勝志就任、11代目消防署長を兼務する。坂本分署長に、山本金次就任。
	4月 1日	中津川市消防団条例の改正により、定員789名から739名となる。

- 8月 3日 第46回岐阜県消防操法大会が各務原市で行なわれ、本市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
- 平成 9年10月29日 中津川市消防団は、財団法人岐阜県消防協会長から成績優秀により、表彰旗を受賞。
- 12月21日 中津川市駒場字角田777-4地内に中津分団第3部消防器具庫1棟を新築する。
- 平成10年 3月11日 株式会社ウスイ消防より救助工作車1台購入し、消防署へ配置。
- 4月 1日 坂本分署長に、松葉和正就任。
中津川市消防団条例の改正により、定員739名から701名となる。
- 8月 2日 第47回岐阜県消防操法大会が郡上郡明宝村で行なわれ、本市消防団は、優勝の栄誉を得た。
- 10月 8日 第16回全国消防操法大会が横浜市戸塚区横浜市消防訓練センターで行われ、本市消防団は、準優勝の栄誉を得た。
- 11月 5日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、中津分団第4部へ配置。
- 11月23日 中津川市阿木見沢1521-12他地域内に、阿木コミュニティ消防センター1棟を新築する。
- 平成11年 4月 1日 消防次長に市岡芳朗就任、消防総務課長を兼務する。
- 4月 8日 株式会社トキワより寄付を受け、中津スバル販売(株)より指令車1台購入し、消防署へ配置。
- 平成12年 3月15日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、消防署へ配置。
- 4月 1日 消防本部次長兼坂本分署長に、市岡芳朗就任。
- 10月18日 有限会社伊藤自動車サービス工場より2B型救急自動車1台購入し、消防署へ配置。
- 11月24日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車1台購入し、苗木分団第2部へ配置。
- 平成13年 4月 1日 消防長松田宣男退任により、23代目消防長に高橋勝志就任、消防次長に市岡芳朗就任、12代目消防署長を兼務する。
坂本分署長に、今井輝幸就任。
- 4月 1日 2名新規採用、消防職員実員数61名となる。
- 7月 3日 株式会社ウスイ消防より化学消防ポンプ自動車1台購入し、消防署へ配置。
- 11月27日 アンシンク株式会社より消防ポンプ自動車1台を購入し、落合分団第1部へ配置。
- 平成14年 4月 1日 消防緊急通信指令施設運用開始。
- 4月 1日 消防次長に加藤一義就任。消防総務課長を兼務する。
- 8月 4日 第51回岐阜県消防操法大会が本巣郡本巣町で行なわれ、当

		市消防団は優勝の栄誉を得た。
	10月24日	第18回全国消防操法大会が横浜市戸塚区横浜市消防訓練センターで行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
平成14年	11月20日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、阿木分団第1部へ配置。
	12月22日	中津川市中津川上金1121-5地内に、中津東コミュニティ消防センターを新築する。
平成15年	4月1日	消防長高橋勝志退任により、24代目消防長に梅本義広就任、消防次長に加藤一義就任、13代目消防署長を兼務する。消防次長に山本金次就任、消防総務課長を兼務する。坂本分署長に幸脇文平就任。
	4月1日	3名新規採用、消防職員実員数60名となる。
	5月12日	中津川市消防団は、市民栄誉賞を受賞する。
	10月16日	岐阜日産自動車株式会社より高規格救急自動車1台購入し、坂本分署へ配置。
	11月20日	東京ドームにおいて行われた自治体消防55周年式典に、中津川市消防らっば隊及び女性音楽隊が出場する。
	12月13日	中津川市飯沼字大野宮の前813-3地内に阿木分団第2部消防器具庫1棟を新築する。
平成16年	2月10日	消防庁舎耐震改修工事完了する。
	4月1日	2名新規採用、消防職員実員数62名となる。
	8月3日	第53回岐阜県消防操法大会が下呂市リバーサイドスタジアムで行われ、当市消防団は優勝の栄誉を得た。
平成17年	1月1日	消防長梅本義広転任により、25代目消防長に加藤一義就任5名転任採用、消防実員数66名となる。
	2月10日	中津川市消防団は、成績優秀により、財団法人日本消防協会から特別表彰「まとい」受賞。
	2月13日	中津川市、恵北地区（坂下町、川上村、加子母村、付知町、福岡町、蛭川村）長野県山口村と合併する。中津川市消防本部に恵北消防組合消防本部、恵那市消防本部蛭川分署（ただし、平成19年3月31日まで恵那市へ消防事務委託）が編入され、1本部3消防署3分署体制となり、消防職員実員数は108名となる。新たに救急課を設立し、中消防署長に松葉和正就任、北消防署長に田口松男就任、西消防署長に今井輝幸が就任する。中津川市消防団、恵北地区消防団、蛭川村消防団、山口村消防団は、連合制をとり8消防団制となる。これにより、消防団員実員数は1773名となる。
	2月28日	財団法人日本消防協会より防火広報車1台寄贈を受け、中消防署に配置。
	11月24日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、中津分

- 団第2部に配置。
- 平成17年12月16日 中津川市落合字三五沢26-841、26-843地内に落合分団西部消防器具庫1棟を新築する。
- 平成18年 3月12日 中津川市福岡1081番地10地内に福岡消防団第三部消防器具庫1棟を新築する。
- 平成18年 4月 1日 中津川市消防団長松田周一退任により、団長に丸山輝城就任、兼ねて中津川市消防協会長に就任。
4名転任採用、消防職員実員数112名となる。
中消防署長に今井輝幸就任、北消防署長に松葉和正就任、西消防署長に田口松男が就任する。
- 4月 1日 消防友の会長市川博退任により5代目会長に松田周一就任。
- 10月28日 設楽俊介氏、作詞、作曲（昭和23年）による「中津町消防団歌」碑を設楽克彦氏より寄贈され署前に建立する。
- 12月23日 中津川市中津川字中島3649-11地内に中津川消防団中津分団第4部消防器具庫1棟を新築する。
- 平成19年 4月 1日 中消防署長を消防次長山本金次兼任、西消防署長田口松男退任により、西消防署長に松葉和正就任、北消防署長に今井輝幸が就任する。
- 9月20日 いすゞ自動車東海株式会社恵那支店より資機材運搬車（クレーン付）1台購入し、中消防署へ配置。
- 12月10日 株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、中消防署へ配置。
- 平成20年 4月 1日 消防長加藤一義退任により、26代目消防長に松葉和正就任、中津川市消防団として、連合制から一団に統合し再編成し、13分団 1688名となる。
- 4月 1日 3名新規採用、消防職員実員数112名となる。
- 5月15日 消防次長に今井輝幸が就任し、中消防署長を兼任、北消防署長に加藤正和が就任する。
- 12月17日 アンシンク株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、中津分団第1部に配置。
- 平成21年 2月 7日 中津川市苗木1767-9地内に苗木分団第1部室屋コミュニティ消防センター1棟を新築する。
- 4月 1日 消防次長に加藤正和が就任し、中消防署長を兼任、今井輝幸消防次長は西消防署長を兼任、北消防署長に内藤龍志が就任する。
- 4月 1日 3名新規採用、消防職員実員数111名となる。
- 8月27日 岐阜トヨタ自動車株式会社中津川店より高規格救急車1台購入し、中消防署へ配置。
- 9月 8日 中津川市千旦林431-15地内に坂本分団第2部六地藏消防器具庫1棟を新築する。

	10月 1日	中津川市消防団条例を改正し、基本団員を1836名から1788名に改め、新たに機能別団員150名を設立した。これにより消防団員定数1938名となる。
	12月 9日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、山口分団第2部に配置。
平成22年	3月16日	株式会社ウスイ消防より水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、北消防署へ配置。
	3月24日	岐阜ヤナセ株式会社より消防ポンプ自動車を購入し、阿木分団第3部に配置。
	4月 1日	消防長松葉和正退任により、27代目消防長に加藤正和就任、消防次長今井輝幸退任により内藤龍志が就任、中消防署長に原賢、北消防署長に早川一敏、西消防署長に長瀬源治がそれぞれ就任する。
	4月 1日	4名新規採用、消防職員実員数112名となる。
	12月28日	中津川市茄子川282-8地内に坂本分団第2部下洗井コミュニティ消防センター1棟を新築する。
平成23年	2月18日	株式会社富士より消防ポンプ自動車を購入し山口分団第3部に配置。
	4月 1日	西消防署長長瀬源治退任により、西消防署長に西尾年正が就任。
	4月 1日	2名新規採用、消防職員実員数112名となる。
	8月26日	岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車1台を購入し、北消防署へ配置。
	11月 9日	平成23年3月11日に発生した東日本震災の消防応援活動により、総務大臣から感謝状を授与された。
	12月22日	中津川市瀬戸2262番地内に苗木分団第3部瀬戸消防コミュニティセンターを1棟新築する。
平成24年	1月19日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し坂本分団第3部・落合分団第3部へ配置。
	4月 1日	消防長加藤正和退任により、28代目消防長に原賢就任、消防次長内藤龍志退任により早川一敏が就任、中消防署長に早川一敏、北消防署長に中島孝彦がそれぞれ就任する。
	4月 1日	3名新規採用、消防職員実員数112名となる。
	12月17日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し福岡分団第2分団・蛭川分団第1部へ配置。
	12月25日	岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車1台を購入し、中消防署へ配置。
平成25年	2月15日	消防救急デジタル無線工事(2年間)。
	3月18日	株式会社ウスイ消防より小型動力ポンプ付水槽車(水10,000ℓ)を購入し、中消防署へ配置。

- 3月28日 中津川市川上268-10番地に川上分団第1部消防器具庫を新築する。
- 3月28日 高機能消防指令システム更新整備工事（2年間）。
- 4月1日 消防長原賢退任により、29代目消防長に杉本高雄就任、消防次長早川一敏退任により金子肇が就任、中消防署長に林一雄、西消防署長に大地弘志がそれぞれ就任する。
- 4月1日 5名新規採用、消防職員実員数114名となる。
- 12月13日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、福岡分団第3分団へ配置。
- 平成26年 4月1日 消防長杉本高雄退任により、30代目消防長に中島孝彦就任、消防次長金子肇退任により林一雄が就任、中消防署長に大地弘志、西消防署長に大山龍男、北消防署長に原文男がそれぞれ就任する。
- 4月1日 4名新規採用、消防職員実員数111名となる。
- 4月1日 中津川市消防団長に小倉主税就任。
- 11月14日 株式会社ウスイ消防より屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入し、中消防署へ配置。
- 12月18日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、神坂分団第2部、坂本分団第2部、加子母分団第1部へ配置。
- 平成27年 4月1日 消防長中島孝彦退任により、31代目消防長に林一雄就任、消防次長に大地弘志が就任、中消防署長に原文男、西消防署長に松葉茂幸、北消防署長に大山龍男がそれぞれ就任する。
- 4月1日 4名新規採用、消防職員実員数113名となる。
- 4月1日 中津川市消防本部救助隊を発足。
- 11月20日 株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、山口分団第1部、福岡分団第3部へ配置。
- 12月10日 中津川市付知町11010-1番地に付知分団第4部消防器具庫を新築する。
- 平成28年 3月18日 有限会社伊藤商会より連絡車を購入し、中消防署坂下分署へ配置。
- 3月22日 岐阜トヨタ自動車株式会社より高規格救急車を購入し、西消防署へ配置。
- 3月28日 岐阜ヤナセ株式会社より指揮車を購入し、中消防署へ配置。
- 4月1日 消防長林一雄退任により、32代目消防長に大地弘志就任、消防次長に松葉茂幸が就任、中消防署長に伊藤民雄、西消防署長に井口義章、北消防署長に西尾昌美がそれぞれ就任する。
- 4月1日 6名新規採用、消防職員実員数114名となる。
- 8月7日 第65回岐阜県消防操法大会が多治見市で行なわれ、本市消防団は、優勝の栄誉を得た。
- 8月24日 第45回全国消防救助技術大会(松山市)ロープ応用登はん

			2名出場。
	1	1月29日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、坂本分団第2部へ配置。
平成29年		3月30日	株式会社ウスイ消防より救助工作車を購入し、北消防署へ配置。
		4月1日	消防長大地弘志退任により、33代目消防長に松葉茂幸就任、消防次長に西尾昌美、中消防署長に安江鉦次、西消防署長に坂巻智司、北消防署長に三好守行がそれぞれ就任する。
		4月1日	3名新規採用、消防職員実員数115名となる
		6月9日	東美濃農業協同組合より普通ワゴン車1台の寄贈を受け、団本部へ配置。
	1	2月14日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、中津分団第3部へ配置。
	1	2月14日	有限会社伊東モータースより小型動力ポンプ積載車2台を購入し、坂本分団第2部、川上分団第1部へ配置。
平成30年		2月20日	岐阜日産自動車株式会社より高規格救急車を2台購入し、坂下分署、加子母分署へ配置。
		4月1日	西消防署長坂巻智司退任より、西消防署長に安江鉦次が就任中消防署長に今井達郎就任。
		4月1日	2名新規採用、消防職員実数115名。
		8月5日	第67回岐阜県消防操法大会が郡上市で行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
	1	2月1日	株式会社ウスイ消防より消防ポンプ自動車を購入し、苗木分団第1部へ配置。
	1	2月1日	有限会社伊東モータースより小型動力ポンプ積載車を購入し、中津分団第3部へ配置。
	1	2月22日	中津川市福岡字鷹ノ巣4261地内に福岡分団第5部消防器具庫を新築。
	1	2月25日	岐阜日産自動車株式会社より高規格救急車を購入し、蛭川分署へ配置。
平成31年		4月1日	消防長松葉茂幸退任により、34代目消防長に今井達郎就任、消防次長兼中署長に河合丈夫、消防次長兼西署長に小川裕史、消防次長兼北署長に曾我明彦がそれぞれ就任する。
		4月1日	4名新規採用、消防職員実数114名。
		4月15日	高機能指令システム及び消防デジタル無線設備の機器更新(2年間)。
令和	元年	5月1日	新元号平成から令和へ。
		8月25日	第48回全国消防救助技術大会(岡山市)ロープ応用登はんに2名出場。
令和	2年	3月19日	中津川市山口319番地に山口分団1部消防器具庫を新築

	4月 1日	消防長今井達郎退任により、35代目消防長に河合丈夫就任、消防次長兼中署長に大橋薫、消防次長兼西署長に小川裕史、消防次長兼北署長に曾我明彦がそれぞれ就任する。
令和 3年	4月 1日	5名新規採用 消防職員実数117名。
	3月24日	消防庁より重機及び重機搬送車を貸与 中消防署へ配置。
	3月25日	株式会社ウスイ消防より救助工作車を購入し、中消防署へ配置。
	4月 1日	消防次長に佐藤貞幸、中署長兼坂下分署長に吉村和泰、西署長兼蛭川分署長に小川裕史、北署長兼加子母分署長に吉村敦支がそれぞれ就任する。
	4月 1日	6名新規採用 消防職員実員数116名。
	10月11日	北署輸送車 寄付を受け北消防署へ配置。
	12月27日	ユニオン電装株式会社より坂下分団分団本部へ指令車交付 坂下分団分団本部へ配置。
令和 4年	1月18日	日本消防協会より消防団本部へ団本部広報車交付 中消防署へ配置。
	2月21日	令和3年7月3日に発生した静岡県熱海市土石流災害の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を授与された。
	2月21日	株式会社オートライフヨシムラより救急支援車を購入し、中消防署へ配置。
	3月14日	有限会社伊東モータースより消防団積載車2台購入し、加子母分団第2部、福岡分団第5部へ配置。
	4月 1日	消防長河合丈夫退任により、36代目消防長に佐藤貞幸就任、消防次長に小川裕史、中署長兼坂下分署長に吉村和泰、西署長兼蛭川分署長に早川豊宏、北署長兼加子母分署長に熊澤隆がそれぞれ就任する。
令和 5年	4月 1日	中津川市消防団長に桂川邦俊就任。
	2月28日	有限会社伊東モータースより消防団積載車を購入し、川上分団第2部へ配置。
	3月 8日	岐阜トヨタ自動車より高規格救急車を購入し、中消防署へ配置。
	4月 1日	消防次長に宮嶋保彦、中署長兼坂下分署長に西尾嘉高がそれぞれ就任する。
	4月 1日	5名新規採用 消防職員実員数117名。
	6月14日	中津貨物自動車株式会社より普通ワゴン車の寄贈を受け中消防署へ配置。
	8月 6日	第72回岐阜県消防操法大会が各務原市で行なわれ、当市消防団は準優勝の栄誉を得た。
	10月 2日	株式会社ウスイ消防より水槽付き消防ポンプ自動車を購入し西消防署へ配置。

令和 6年	1月13日	中津川市消防団重機分団を発足。
	2月28日	株式会社ウスイ消防より消防団ポンプ車を2台購入し、加子母分団本部、蛭川分団第3部へ配置。
	2月29日	有限会社伊東モータースより消防団積載車を購入し、中津分団第4部へ配置。
		有限会社伊東モータースより消防団軽積載車を購入し、落合分団第2部へ配置。
	4月 1日	消防長佐藤貞幸退任により、37代目消防長に宮嶋保彦就任、消防次長に西尾達也、中署長兼坂下分署長に小川歩、西署長兼蛭川分署長に林秀雄、北署長兼加子母分署長に吉村孝紀がそれぞれ就任する。
	4月 1日	6名新規採用 消防職員実員数118名。
	5月23日	令和6年1月1日に発生した能登半島地震の消防応援活動により、消防庁長官から感謝状を授与された。
	8月13日	おいでん祭に際して、消防団みこしを更新。
	8月29日	東濃5市消防指令センター建設工事安全祈願祭を挙げる。
	令和 7年	3月 6日
3月10日		株式会社ウスイ消防より消防団ポンプ車を2台購入し、坂本分団第1部、坂下分団第1部へ配置。
4月 1日		6名新規採用 消防職員実員数121名
9月 8日		株式会社ウスイ消防より大型水槽付消防ポンプ車を購入し、北消防署へ配置。
9月26日		有限会社中津川ビジネスより軽ワンボックス車を購入し、蛭川分署へ配置。

恵北消防組合のあゆみ

昭和57年	4月 1日	坂下町、川上村、加子母村、付知町及び福岡町を区域とする恵北消防組合が設立。大野秋夫が初代消防長に就任し、消防職員32名で構成。
	6月	恵北消防組合業務開始。消防長大野秋夫辞任により、2代目消防長に田口藤助就任。
	8月	日本消防協会より救急車の寄贈を受け、恵北消防署へ配備。
	11月	恵北消防組合消防本部・消防署並びに坂下、加子母分署庁舎建設。水槽付消防ポンプ自動車2台購入、消防署、坂下分署へ配備。
昭和58年	12月	日産自動車より救急車の寄贈を受け、加子母分署へ配備。水槽付消防ポンプ自動車1台購入、加子母分署へ配備。
昭和61年	2月	日本損害保険協会より救急車の寄贈を受け、坂下分署へ配備。

昭和62年	4月	1日	消防長田口藤助退任により、3代目消防長に鎌田昇就任。
平成3年	10月		消防組合設立10周年記念式典。
平成4年	1月		救急車を更新し、恵北消防署へ配備。
	4月	1日	消防長鎌田昇退任により、4代目消防長に安江洋平就任。
平成5年	11月		救助工作車、消防ポンプ自動車購入し、恵北消防署へ配備。
平成6年	11月		救急車を更新し、加子母分署へ配備。
平成9年	4月	1日	消防長安江洋平退任により、5代目消防長に井後周久就任。 機構改革により消防本部に課制(総務課、予防課、警防課)導入。
平成14年	4月	1日	消防長井後周久退任により、6代目消防長に原洋甫就任。
平成17年	2月	12日	恵北消防組合解散式。
平成17年	2月	13日	中津川市との合併により、中津川市消防本部へ編入する。

山口村消防のあゆみ

昭和22年	4月	30日	山口村消防団が128名の編成をもって発足。
昭和33年	10月		山口村消防団が3分団175名をもって再編成。
平成17年	2月		市町村合併により中津川市山口消防団に改称。
平成20年	4月		中津川市消防団山口分団と改称。

坂下町消防のあゆみ

明治23年	3月		坂下町私設消防組を約20名、鳶口若干配備にて組織。
明治35年			坂下町公設消防組認可
昭和4年	12月		上野区内の消防施設を合併し、坂下町消防組と改称。
昭和11年	1月		坂下少年消防隊を設置。
昭和12年	3月		坂下町消防団本部詰所を建築。
昭和14年	4月		坂下町消防組解組により坂下町警防団を設立。
昭和22年	10月		警防団解散により坂下町消防団として発足。
昭和31年	9月		消防ポンプ自動車1台購入、第1分団へ配備。
昭和34年	12月	3日	坂下町消防団70周年記念式典。
昭和41年	4月	1日	坂下町婦人防火クラブを発足。
昭和43年	7月	31日	第2分団ポンプ小屋建設。
	9月	3日	森田式中型消防ポンプ自動車1台を購入、第2分団へ配備。
昭和45年	3月	22日	坂下町消防団創立80周年式典。
	9月	27日	中型ポンプ自動車1台購入、第6分団へ配備。
昭和46年	8月	15日	中型ポンプ自動車1台購入、第1分団へ配備。
昭和48年	9月	17日	第7分団ポンプ車庫建設(現第4分団2部)。

	9月 3日	森田式中型消防ポンプ自動車1台を購入、第2分団へ配備。
昭和45年	3月22日	坂下町消防団創立80周年式典。
	9月27日	中型ポンプ自動車1台購入、第6分団へ配備。
昭和46年	8月15日	中型ポンプ自動車1台購入、第1分団へ配備。
昭和48年	9月17日	第7分団ポンプ車庫建設(現第4分団2部)。
	11月18日	第6分団詰所建設(現第2分団2部)。
昭和49年	9月 8日	第1分団車庫詰所建設(現第1分団1部)。
昭和50年	11月30日	第4分団車庫建設(現第3分団2部)。
昭和52年	3月28日	7分団から4分団8部制とし、再編成。
昭和53年	8月31日	第1分団第2部車庫建設。
昭和55年	8月17日	第4分団第1部詰所建設。
昭和63年	2月13日	第2分団第2部詰所建設。
平成 3年	1月13日	第3分団第1部詰所建設。
	1月19日	第4分団第2部詰所建設。
平成 6年	1月26日	第1分団第1部詰所建設。
平成 8年	1月 6日	消防ポンプ自動車購入、第2分団第1部に配備。
平成 9年	1月 6日	消防ポンプ自動車購入、第2分団第2部に配備。
平成10年	1月 6日	消防ポンプ自動車購入、第1分団第1部に配備。
平成11年	1月 6日	消防ポンプ自動車購入、本部に配備。
平成17年	2月	市町村合併により中津川市坂下消防団に改称。
平成20年	4月	中津川市消防団坂下分団と改称。

川上村消防のあゆみ

大正 6年	2月11日	川上村私設消防組を120名にて組織。
大正11年	7月13日	4組制、140名をもって再編成。
昭和 8年	8月22日	川上村公設消防組認可。4部制112名。
昭和14年	4月 1日	川上村消防組を廃して、川上村警防団を創立。
昭和22年	12月 5日	川上村警防団を改廃して、川上村消防団を創立。消防団長に原鏡一が就任。
昭和27年	4月 1日	消防団長原鏡一退任により、東野守が就任。
昭和31年	3月11日	消防団長東野守辞任により、原六郎が就任。
昭和35年	3月12日	消防団長原六郎辞任により、原逸平が就任。
昭和41年	3月15日	消防団長原逸平辞任により、粥川武美が就任。
昭和43年	9月 9日	消防ポンプ自動車を購入。
昭和51年	4月 1日	消防団長粥川武美退任により、鎌田昇が就任。
昭和52年	9月10日	消防器具庫2棟建設。(1分団 森平、2分団 奥屋)
平成17年	2月	市町村合併により中津川市川上消防団に改称
平成20年	4月	中津川市消防団川上分団と改称

加子母村消防のあゆみ

大正12年	5月10日	加子母村消防組が結成。初代組頭 田口幸六 組員164名・3部制で組織
大正14年	4月 1日	消防応援団体として加子母村応援隊が発足。隊員70名
昭和 4年	3月31日	2代組頭 丹羽清一郎 就任
昭和11年	4月29日	3・4・7組の詰所を建設
昭和12年	4月 1日	加子母村応援隊を加子母村警防隊と改称 少年消防隊が発足
昭和14年	4月 1日	加子母村消防組を加子母村警防団と改称。 初代警防団長 河村信太郎 就任
昭和18年	4月 1日	2代警防団長 安江鑒蔵 就任。
昭和22年	7月28日	加子母村消防団が発足 初代団長に田口整吾が就任。 3分団・新団員120名で編成。
昭和26年	3月25日	2・6・9班に格納庫を建設。
	4月 1日	2代目団長に安江己郎が就任。
昭和27年	8月30日	第1班詰所1棟新築完成。
昭和28年	10月31日	第2班詰所1棟新築完成。
昭和29年	3月 1日	自動車ポンプを購入、第2分団第6班へ配備。
昭和30年	5月18日	消防ポンプ自動車(トヨタ 90PS ホンダ 日本機会) 1台購入。
	6月30日	第1分団第1班、第2分団第4班 器具庫各1棟新築完成。
	12月27日	第1班、第10班 小型動力ポンプ庫を新築。
昭和32年	2月11日	日本消防協会旗(表彰旗)が授与された。
昭和34年	2月 1日	3代目団長に安江鏡美が就任。
	5月 8日	第8回岐阜県消防操法大会(高山市)に於いて、自動車ポンプの部で第4位、可搬ポンプの部で3位に入賞。
昭和35年	4月29日	第9回岐阜県消防操法大会(岐阜市)に於いて、可搬ポンプの部で3位に入賞。
昭和36年	12月 1日	岐阜県知事より表彰・知事旗授与。
昭和38年	8月11日	村史稀な集中豪雨の大災害発生、翌12日まで終日全団員防災に活躍。
	12月 1日	加子母村婦人消防隊を結成、初代隊長 岩木いちへ 就任
	12月20日	団員の定数を改正、定員140人(20人増)となる。
昭和40年	2月 1日	4代目団長に田口藤助が就任。
	3月 3日	消防庁長官より表彰・竿頭綬を授与。
	8月20日	第1分団第2班に消防ポンプ自動車車庫が完成。
	8月30日	消防ポンプ自動車(イヌ 140PS、ホンダ トラック式) 1台購入、第2分団に配置、既設の消防ポンプ自動車は第1分団へ配置

昭和41年	3月 3日	消防庁長官より、表彰旗を授与された。
	7月21日	消防団員の定員を145名（増員5名）とした。
昭和43年	4月 1日	第2分団・第5班の消防詰所完成。
	7月19日	消防ポンプ自動車（ニッサン125PS、ポンプモタ式）1台購入、第3分団に配置。
	8月13日	岐阜県知事より、知事竿頭綬を授与。
昭和44年	4月27日	第18回岐阜県消防操法大会（吉城郡神岡町）に於いて、第5位に入賞。
昭和45年	4月29日	第19回岐阜県消防操法大会（揖斐郡揖斐川町）に於いて、準優勝（第5班）、第3位（第4班）にそれぞれ入賞。
	8月 6日	消防ポンプ自動車（トヨタ115PS、ポンプモタ式）1台購入。
昭和46年	9月 6日	未曾有の豪雨が北部地区を襲い大災害発生（昭和46年集中豪雨災害）9日まで消防団員出動。
昭和47年	4月29日	第20回岐阜県消防操法大会（本巣郡穂積町）に於いて、小型ポンプ操法の部で優勝。
	5月26日	消防団員の定員を150名（増員5名）とした。
昭和49年	8月 4日	第23回岐阜県消防操法大会（大野郡荘川村）に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝。
昭和50年	8月 3日	第24回岐阜県消防操法大会（不破郡垂井町）に於いて、ポンプ車操法の部で優勝。
	8月18日	日本船舶振興会より、小型動力ポンプ積載車（トヨタ2,000CC特別艀装車）1台寄贈。本部班へ配置。
昭和51年	8月 1日	第25回岐阜県消防操法大会（恵那市）に於いて、小型ポンプ操法の部で4位に入賞。
	10月17日	第5回全国消防操法大会（東京消防学校）に於いて、自動車ポンプの部で準優勝した。
昭和53年	8月 6日	第27回岐阜県消防操法大会（加茂郡坂祝町）に於いて、小型ポンプ操法の部で3位に入賞。
昭和54年	4月 1日	消防団員の定員を155名（増員5名）とした。 消防音楽隊（15名編成）が発足。
昭和55年	2月12日	日本消防協会長より、特別表彰まといを受彰した。
	8月 3日	第29回岐阜県消防操法大会（揖斐郡谷汲村）に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝。
昭和56年	8月 2日	第30回岐阜県消防操法大会（恵那郡山岡町）に於いて、ポンプ自動車操法の部で6位に入賞。
	9月 1日	消防ポンプ自動車（トヨタ60V、ポンプモタ式）BS-1A2級1台購入。第2分団第6班へ配置。
昭和57年	4月 1日	5代目団長に今井巳智夫が就任。
	8月 8日	第31回岐阜県消防操法大会（羽島市）に於いて、小型ポンプ操法の部で9位に入賞。

昭和59年	4月 1日	6代目団長に佐藤文男が就任。
	8月 5日	第33回岐阜県消防操法大会(古川町)に於いて、小型ポンプ操法の部で準優勝
昭和61年	8月 3日	第35回岐阜県消防操法大会(福岡町)に於いて、小型ポンプ操法の部で7位に入賞。
昭和62年	12月16日	消防ポンプ自動車(トヨタ M-FJ62V、ポンプモリタ式)BD-I型4WD 1台購入。第3分団第9班へ配置。(国庫補助事業)
昭和63年	8月 7日	第37回岐阜県消防操法大会(美濃市)に於いて、小型ポンプ操法の部で3位に入賞。
平成 元年	7月 1日	消防ポンプ自動車(トヨタ M-FJ62V、ポンプモリタ式)BD-I型4WD 1台購入。第1分団第2班へ配置。(辺地対策事業)
	9月 6日	第5回全国婦人消防操法大会(横浜市)に於いて、加子母村婦人消防隊が優良賞を受賞。
平成 2年	8月 1日	(財)日本消防協会より、消防指令広報車が寄贈。
	8月 5日	第39回岐阜県消防操法大会(安八町)に於いて、小型ポンプ操法の部で4位に入賞。
平成 5年	2月 1日	第3分団第10班にコミュニティ消防センターを建設。 (防災まちづくり事業)
平成 6年	2月 1日	第2分団第7班にコミュニティ消防センターを建設。 (防災まちづくり事業)
	11月 1日	岐阜県知事より、特別表彰旗が授与された。
平成 7年	2月 1日	第1分団第1班・第2分団第4班・第3分団第9班にコミュニティ消防センターを建設。
平成 8年	8月 4日	第45回岐阜県消防操法大会(中津川市)に於いて、小型ポンプ操法の部で6位に入賞。
	12月23日	消防ポンプ自動車(トヨタ KG-BU172 4100KW) 1台購入、第2分団第6班へ配置。(防災まちづくり事業)
平成10年	2月 1日	第2分団第4班にコミュニティ消防センターを建設。 (防災まちづくり事業)
平成16年	12月10日	ポンプ自動車(CD-1・低床4WD) 1台を購入し、第2分団第6班へ配備。(補助事業)
平成17年	2月13日	中津川市との合併により、加子母村消防団から中津川市加子母消防団に改称。
平成20年	3月30日	加子母消防団閉団式(団旗納め式)。
	4月 1日	中津川市消防団加子母分団と改称。

付知町消防のあゆみ

明治31年 4月 岐阜県告示第160号をもって付知消防組が認可される。

組員任命 組頭 熊谷鉄太郎、小頭6名、消防手162名
ポンプ3台

明治36年 5月 組頭 坪井誠爾就任。

明治44年 5月 組頭 加地喜兵衛就任。

大正 2年 5月 一の宮地内で大火発生 全焼家屋32棟、半焼家屋6棟、半壊1棟
という大惨事となる。

大正14年 5月 組頭 早川三代蔵就任。

12月 第一部詰所新築。

大正15年 5月 第3部詰所新築。

昭和 7年12月 組頭 伊藤善三郎就任。

昭和 9年12月 組頭 熊谷常勝就任。

昭和10年10月 ガソリンポンプ車2台購入 第1部、第2部に配置。
第1部、第2部にポンプ車車庫2棟新築。

昭和11年 5月 岐阜県知事表彰、金馬簾受賞披露式を行う。

9月 第3部ガソリンポンプ車庫新築。

10月 ガソリンポンプ購入 第3部に配置。

昭和13年 5月 組頭 伊藤公道就任。

昭和14年 4月 付知町警防団設置。
警防団長 早川安市 総員300名 3分団で編成。
第1分団103名 第2分団100名 第3分団81名。

昭和22年 9月 付知警防団を解散し、付知消防団発足。
団長 片田良雄、団員数 200名。第1、第2、第3分団とし、
手びきガソリンポンプ班、腕用ポンプ、階梯班をそれぞれ編成。

昭和26年 7月 第3分団ポンプ庫2棟新築。

昭和27年 1月 団長 坪井末彦就任。

昭和28年11月 消防ポンプ自動車1台購入 役場に配置。

12月 役場前消防車庫新築。
岐阜県消防協会総裁賞 竿頭授受賞。

昭和29年 7月 岐阜県知事表彰、優良消防団金馬簾表彰に係る査閲を受ける。

8月 県下33団の内首席として金馬簾表彰を受賞。

昭和30年10月 第1分団小型動力ポンプ庫新築。

昭和31年 2月 日本消防協会優良消防団として表彰旗を受賞する。

12月 小型動力ポンプ庫2棟新築。

昭和32年 4月 団長 原友三郎就任。

昭和33年11月 岐阜県知事表彰、知事旗表彰の査閲を県査定官より受ける。

昭和36年 4月 団長 三島定美就任。

昭和40年 1月 消防ポンプ自動車(トヨタドクター 森田ポンプA2級)1台購入。
第2分団に配備。

4月 団長 伊藤正久 就任。

11月 付知町婦人防火クラブ結成。

昭和41年	4月	消防庁長官表彰竿頭綬受賞伝達を受ける。
昭和42年	12月	消防ポンプ自動車(A2級)第1分団に配備。 第1分団に消防ポンプ自動車車庫完成。
昭和45年	3月	消防庁長官表彰、長官旗受賞。
昭和46年	10月	知事旗竿頭綬受賞。
昭和48年	8月	消防ポンプ自動車(トヨタ・クルザー 125馬力)第2分団に配備。
昭和49年	10月	付知町消防友の会発足。
昭和50年	4月	団長 伊藤博郎 就任 恵北消防協会 発足。
昭和51年	9月	第3分団積載車車庫完成。
	12月	第4分団詰所完成。
昭和52年	12月	消防ポンプ自動車(トヨタ・クルザー BS1型)1台購入。 第4分団に配備。
昭和53年	12月	第3分団小型動力ポンプ積載車車庫完成。
昭和54年	4月	団長 三尾吉示 就任。
	12月	第4分団小型動力ポンプ積載車車庫完成。
昭和55年	11月	第1回岐阜県消防ラッパ競練会に東濃地区代表として出場し、敢闘賞を受賞。
	12月	小型動力ポンプ積載車車庫を第2分団に2棟、第3分団に1棟、第4分団に1棟完成。
昭和56年	5月	東清運輸から車両(ニッサン・ブルーバード1600cc)の寄贈を受け本部指令車として配備。
	6月	広屋林私設消防団発足 組織員62名。
	8月	消防ポンプ自動車(トヨタ・クルザー4000cc)1台購入、第3分団に配備。
昭和58年	8月	消防ポンプ自動車(トヨタ BS1型 4500cc)1台購入、第4分団に配備。
昭和59年	4月	団長 伊藤幸雄 就任。
昭和63年	4月	団長 原米彦 就任。
平成元年	2月	日本消防協会から竿頭綬受領。
平成4年	4月	団長 小松利彦 就任。
	7月	第4回岐阜県消防団員意見発表会で付知町消防団員3位入賞。
平成6年	12月	上倉屋地内で建物火災 団員1名負傷。
平成8年	4月	団長 熊谷和朗 就任。
平成11年	12月	消防ポンプ自動車1台購入 第2自動車に配備。
平成12年	4月	団長 吉村象作 就任。
平成17年	1月	消防ポンプ自動車2台購入。
	2月	市町村合併に伴い「中津川市付知消防団」と改称。
平成18年	11月	岐阜県特別表彰旗授与。
平成20年	3月	付知消防団閉団式 団長 吉村象作 退任。
	4月	中津川市消防団付知分団と改称。

福岡町消防のあゆみ

明治41年	4月	福岡消防組結成挙行（組員113名）組頭 安保豊次郎。
大正5年	3月	下野消防組結成挙行（組員117名）組頭 西尾栄次郎。
大正10年	11月	田瀬消防組結成挙行（組員94名）組頭 伊藤彦十郎。
大正12年	4月	高山消防組結成挙行（組員112名）組頭 吉村勘六。
昭和4年	3月	高山小学校児童消防隊結成。
昭和8年	10月	福岡少年消防隊発足。
昭和11年	8月	消防組織変更が認可され、4消防組を統一合併し福岡村消防組と称す。定員618名、本部と9部制で組織。
	9月	福岡村防護団の結成。
	10月	福岡村消防組発表式挙行。消防組頭 原権一就任。
昭和12年	3月	福岡村消防組の組織変更許可申請により、9部制組織を本部以下4部制に改組し、定員を340名とする。
昭和14年	4月	警防団令により消防組を解散、福岡村警防団の結団式。警防団長に原権一就任。 4部制を4分団とし、定員を300名とする。
昭和15年	5月	警防団長に林義一就任。
昭和19年	5月	警防団長に山田喜代太郎就任。
昭和20年	1月	福岡村警防団員数を230名とする。
昭和21年	2月	福岡村警防団員数を300名とする。
	3月	警防団長に原幸平就任。
昭和22年	7月	福岡村消防団設置条例制定。消防団員数を300名とする。
	8月	消防団給与条例制定。 消防団員服務規律及び懲戒条例制定。
	9月	消防団令により警防団を消防団に改組。 消防団結団式。団長に伊藤房雄就任。
	9月	福岡村消防委員会設置。
昭和23年	4月	福岡村消防団員数を200名とする。
昭和24年	1月	福岡村消防条例制定。
	12月	消防団長に田口大剛就任。
昭和26年	8月	福岡村消防本部詰所建設。
昭和28年	10月	消防団長に大野秋夫就任。
昭和30年	12月	消防団長に吉村恒雄就任。
昭和32年	3月	福岡村消防団員公務災害補償条例制定。
	12月	消防団長に伊藤勝郎就任。
昭和33年	11月	福岡村消防団条例制定（全部改正） 団員数260名とする。
昭和36年	12月	中型消防ポンプ自動車購入 福岡分団配属。
昭和37年	2月	福岡村火災予防条例制定（全部改正）。

	3月	消防団長に林龍一就任。
昭和39年	3月	少年消防クラブ岐阜県知事表彰。 消防団長に今井勇二就任。
昭和40年	9月	県防災連合演習実施 福岡地内。
昭和41年	3月	福岡村消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例制定。消防団長に吉村滋気祺就任。
	4月	町制施行により福岡町消防団と改称する。 町婦人防火クラブ結成。
昭和43年	3月	消防団長に深谷昭二就任。
	7月	福岡町消防団設置等に関する条例制定。 福岡町消防団規則制定
昭和44年	3月	高山若山地区湯の島ラジウム温泉全焼 死者1名。
	9月	福岡町消防賞じゅつ金条例制定。 福岡町消防団員公務災害補償条例制定。
昭和45年	4月	役場、農協消防を設置。団員数を215名とする。
	12月	中型消防ポンプ自動車2台購入 田瀬・高山分団配属。
昭和46年	3月	少年消防クラブ岐阜県表彰。
昭和47年	3月	消防団長に長瀬規男就任。
	9月	中型消防ポンプ自動車購入 下野分団配属。
昭和49年	4月	団員数を220名とする。
	7月	恵北一市六町村知事旗受賞記念大会（福岡町）。
	9月	中型消防ポンプ自動車購入 福岡分団配属。
昭和51年	3月	消防団長に糸魚川柏三就任。
昭和54年	1月	福岡中学校少年消防クラブ表彰（東京）。
	8月	中上消防車庫新設。
昭和55年	2月	消防音楽隊披露式。
	4月	小型動力ポンプ購入 田瀬分団大萱配属。 消防団長に渡辺修美就任。
昭和56年	10月	日本消防協会から小型動力ポンプ積載車寄贈 本部分団配属。
昭和57年	3月	木積沢消防車庫新設。
	10月	恵北消防組合開設。
	12月	田瀬分団詰所新設。福岡分団川西詰所新設。
昭和58年	4月	消防音楽隊エル・ジェ結成。
昭和59年	4月	消防庁長官竿頭授受賞披露式。
	8月	少年消防クラブ優良クラブ表彰（第10回全国大会）。
昭和60年	9月	消防ポンプ自動車更新 第1分団配属。
	10月	新田器具庫新築。
昭和61年	4月	消防団長に小林優就任。
	8月	第35回岐阜県消防操法大会開催（福岡中学校グラウンド）出場隊（本部分団）準優勝。

昭和61年	9月	消防ポンプ自動車更新 第4分団配属。
昭和62年	4月	東清運輸より団本部に指令車寄贈。
昭和63年	9月	消防ポンプ自動車更新 第2分団配属。
	10月	婦人消防隊優良婦人防火クラブが日本防火協会より表彰。
平成元年	8月	第38回岐阜県消防操法大会出場(高山市) 8位入賞。
平成2年	10月	消防ポンプ自動車更新 第3分団配属。
平成3年	4月	消防団長に深谷勲就任。
	8月	第40回岐阜県消防操法大会出場(多治見市) 4位入賞。
平成4年	2月	婦人消防隊日消表彰旗受賞。
	3月	防災行政無線車載型を全車両13台に配備。
平成6年	3月	消防庁長官表彰旗授与。
平成7年	3月	下野コミュニティ消防センター新築。
平成8年	9月	高山コミュニティ消防センター新築。
	10月	第12回全国婦人消防操法大会(横浜市)にて福岡婦人消防隊が岐阜県代表として出場 五位入賞。
平成9年	4月	消防団長に今井則也就任。
平成11年	11月	岐阜県知事竿頭綬を授与。
平成13年	12月	消防指令車更新 団本部へ配属。
平成14年	8月	第51回岐阜県消防操法大会出場(本巣町) 7位入賞。
平成15年	3月	CD型消防ポンプ自動車2台購入 第1分団、第4分団へ配属。
	11月	自治体消防55周年記念大会(東京)にラッパ隊員が中津川・恵北連合ラッパ隊として参加。
平成16年	8月	第53回岐阜県消防操法大会出場(下呂市) 5位入賞。
	12月	岐阜県知事特別表彰旗を授与。
平成17年	2月	市町村合併により中津川市福岡消防団に改称。
平成18年	3月	第3分団(川東)消防器具庫新築。
	4月	消防団長に大山安彦就任。
平成20年	3月	福岡消防団閉団式。
	4月	中津川市消防団福岡分団と改称。

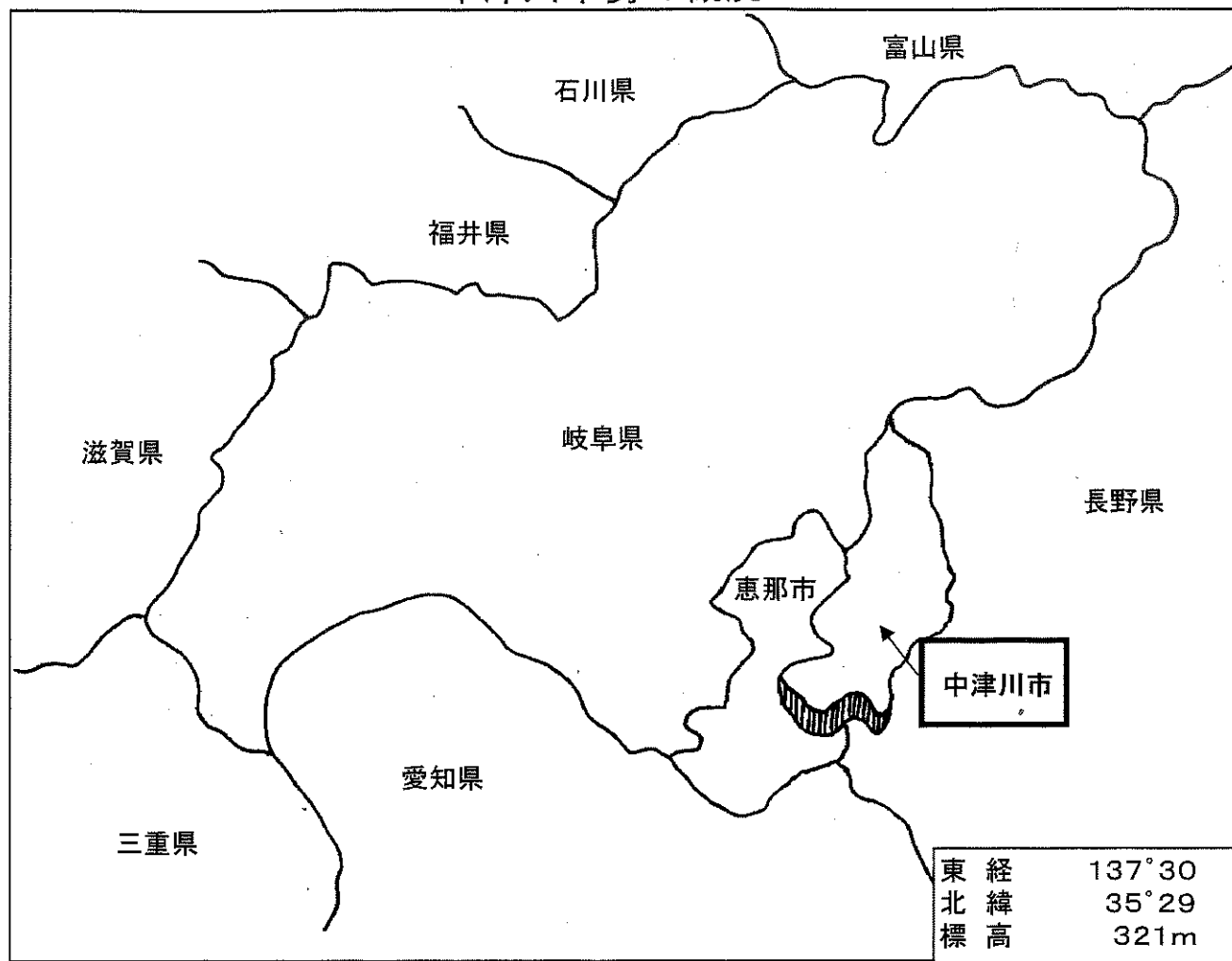
蛭川村消防のあゆみ

大正3年	9月29日	蛭川村私設消防組結成式。
大正5年	5月3日	蛭川村公設消防組認可。
昭和14年	4月10日	消防組解散式並びに警防団結成式(定員242人 3分団制)。
昭和22年	9月1日	消防団と改組(定員220人 4分団制)。
昭和23年	1月18日	小型自動車ポンプ購入。
昭和26年	11月24日	大型自動車ポンプ購入。
昭和27年	4月1日	第1分団消防詰所建設(中切)。

昭和29年	4月	1日	消防詰所建設（柏ヶ根）。	
昭和30年	9月	1日	消防詰所建設（一之瀬）。	
昭和32年	5月	4日	消防詰所建設（下沢・奥渡）。	
昭和33年	12月	15日	消防詰所建設（和田）。	
		12月	20日	消防詰所建設（棚田・一色）。
昭和34年	4月	20日	消防詰所建設（奈良井）。	
		9月	20日	消防詰所建設（町切）。
昭和37年	1月	17日	消防ポンプ自動車購入（町切）。	
		8月	20日	消防詰所建設（鳩吹）。
昭和39年	4月	23日	蛭川村消防団条例改正し定員200名から180名となる。	
昭和41年	10月	14日	消防詰所移転（鳩吹）。	
昭和48年	3月	23日	大型消防ポンプ自動車購入。	
昭和57年	3月	31日	恵那市・蛭川村消防事務委託施行式。	
昭和58年	10月	26日	恵那市消防署蛭川分署開署式。	
昭和63年	12月	28日	消防ポンプ自動車購入（水力発電施設交付金）。	
平成元年	12月	25日	コミュニティー消防センター建設（今洞）。	
平成2年	12月	25日	コミュニティー消防センター建設（下沢）。	
平成3年	12月	12日	消防詰所建設（田原）。	
平成4年	12月	15日	消防詰所建設（棚田）。	
平成6年	10月	21日	蛭川保育所幼年消防クラブ結成式。	
平成13年	12月	10日	消防ポンプ自動車購入（第2分団1部配属）。	
平成17年	2月		市町村合併により中津川市蛭川消防団に改称。	
平成20年	4月		中津川市消防団蛭川分団と改称。	

1 消防情勢

中津川市勢の概況



市 勢 令和7年12月31日現在

面 積	人 口	世 帯 数
676.45km ²	72,449人	31,881世帯

所在地

中津川市消防本部	中消防署	岐阜県中津川市かやの木町1番10号
中津川市中消防署	坂下分署	岐阜県中津川市坂下1410番地9
中津川市西消防署		岐阜県中津川市茄子川1785番地の36
中津川市西消防署	蛭川分署	岐阜県中津川市蛭川2207番地4
中津川市北消防署		岐阜県中津川市田瀬1836番地1
中津川市北消防署	加子母分署	岐阜県中津川市加子母3693番地2

合併状況

年次	合併状況	面積(km ²)	人口	世帯数
明治22年	中津川町制施行			
明治30年	手賀野・駒場村合併	69.78		
明治30年	中津川町に改名	69.78		
昭和26年	恵那郡苗木町合併	101.48	28,590	5,743
昭和26年	中津川町に改名	101.48	28,590	5,743
昭和27年	中津川市制施行	101.48	30,987	5,955
昭和29年	恵那郡坂本村合併	134.58	35,887	7,227
昭和31年	恵那郡落合村合併	158.73	40,818	8,186
昭和32年	恵那郡阿木村合併	236.90	45,243	9,123
昭和33年	長野県西筑摩郡神坂村合併	276.53	46,781	9,559
平成17年	恵北地区、山口村、合併	676.45	86,488	28,271

比較表

消 防 本 部 (署)						消 防 団					
消 防 吏 員 一 人 対 する			ポ ン プ 車 1 台 に 対 する			消 防 団 員 一 人 対 する			ポ ン プ 車 1 台 に 対 する		
面 積	人 口	世 帯 数	面 積	人 口	世 帯 数	面 積	人 口	世 帯 数	面 積	人 口	世 帯 数
km ²	人	世帯	km ²	人	世帯	km ²	人	世帯	km ²	人	世帯
5.6	604	266	84.6	9,056	3,985	0.5	51	23	18.3	1,958	862
消 防 吏 員 数 120人			消 防 ポ ン プ 自 動 車 8台			消 防 団 員 数 1,412人			消 防 ポ ン プ 自 動 車 37台		

令和7年度当初予算

(単位:千円)

市 一 般 会 計 予 算 額		45,300,000
消 防 費		1,903,093
内 訳	常 備 消 防 費	1,116,341
	非 常 備 消 防 費	153,326
	消 防 施 設 費	561,221
	防 災 対 策 費	72,205

市一般会計予算(当初)と消防費との比較

(単位:千円)

年 度	区 分	市一般会計予算	消 防 費	比 較
令和3年度		38,150,000	1,314,464	3.4%
令和4年度		42,650,000	1,396,590	3.3%
令和5年度		41,260,000	1,475,159	3.6%
令和6年度		45,140,000	1,667,157	3.7%
令和7年度		45,300,000	1,903,093	4.2%

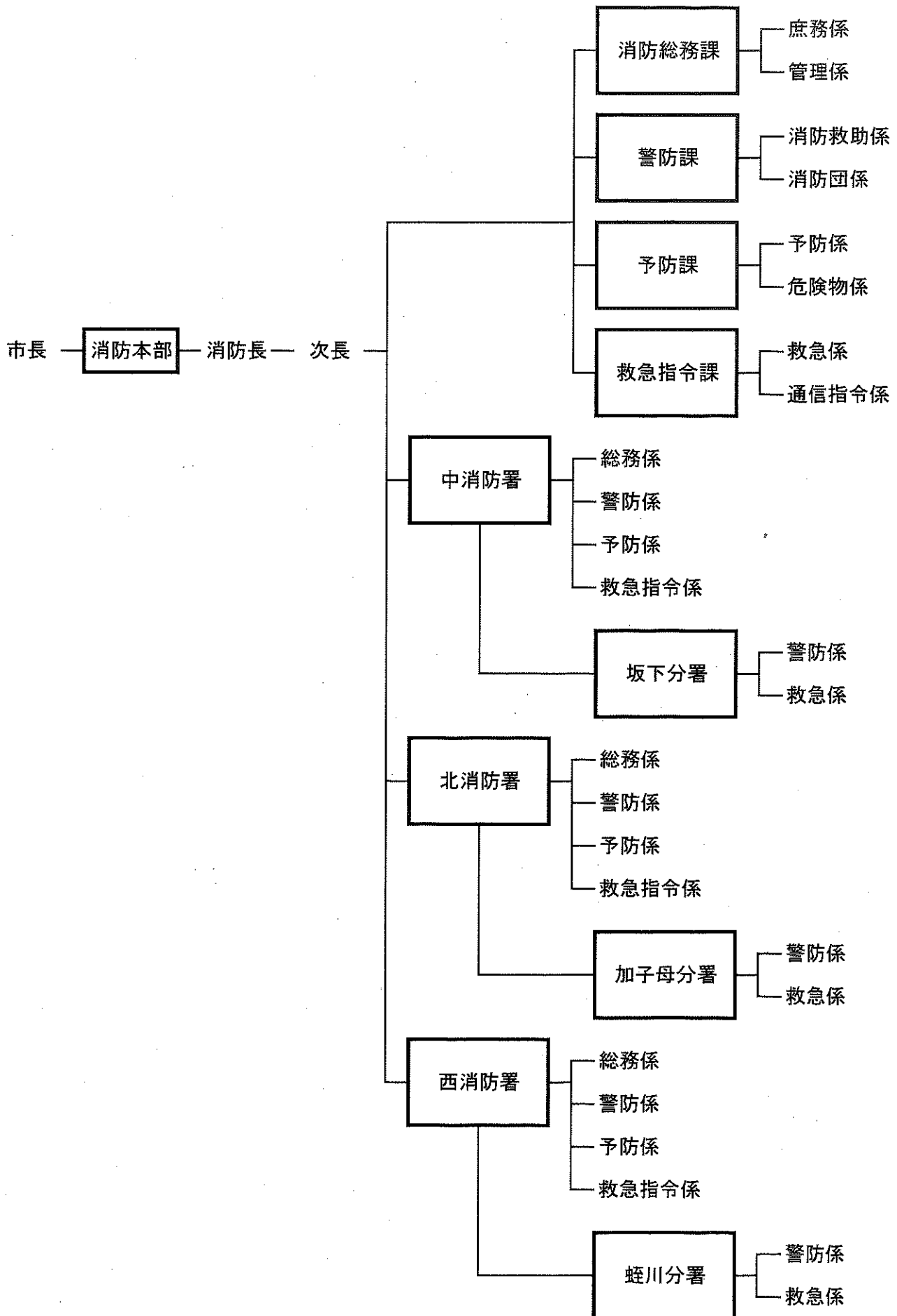
市民の消防費の割合

市民一人当たり	市民一世帯当たり
26,268円	59,694円

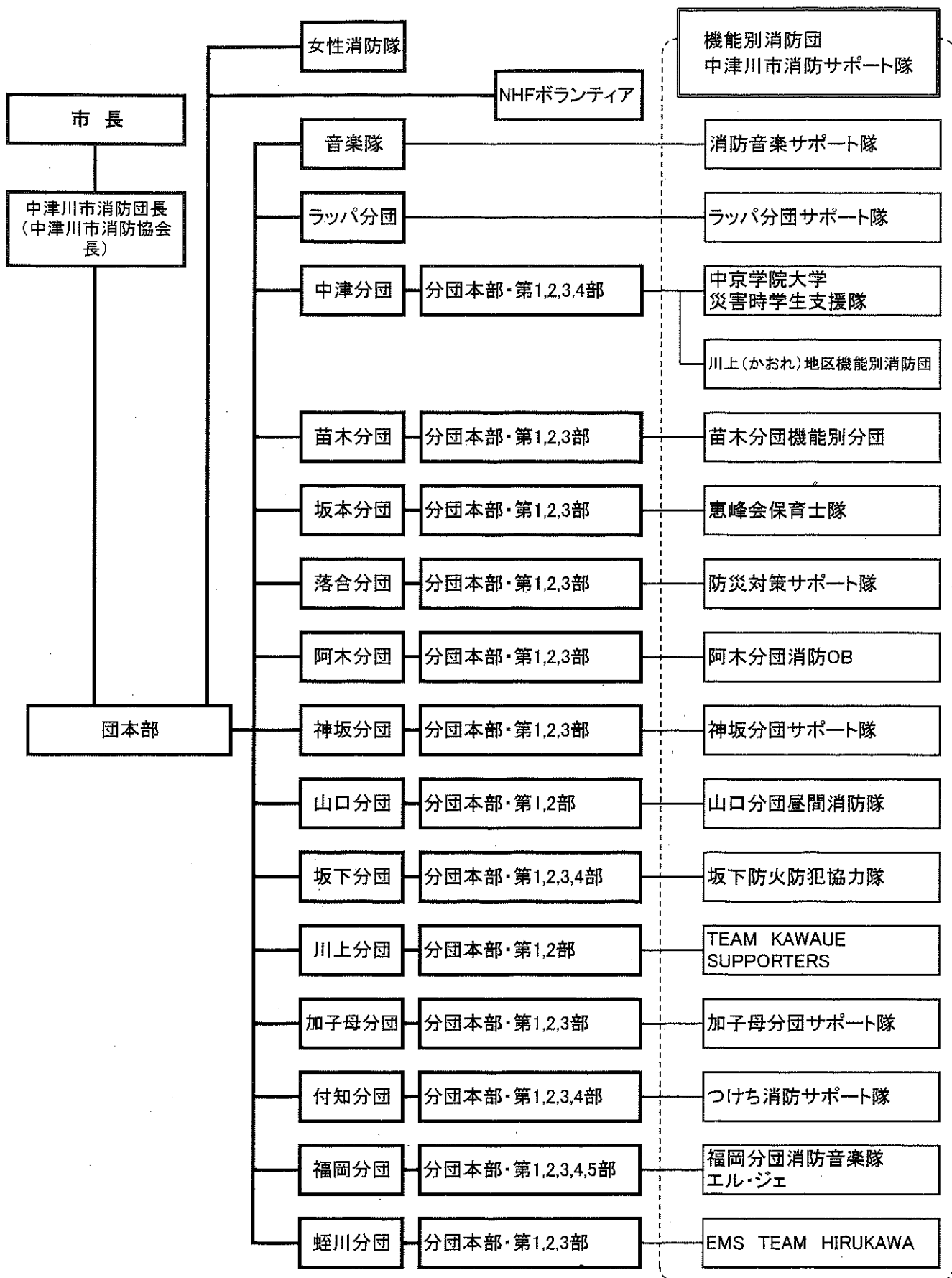
令和7年12月31日現在

面 積	人 口	世 帯 数
676.45	72,449人	31,881世帯

中津川市消防本部機構(組織)



中津川市消防団機構(組織)



事務分掌

消防総務課

- 1 消防職員の進退及び身分に関すること。
- 2 予算及び経理に関すること。
- 3 消防に関する法令の執行に関すること。
- 4 消防施設に関すること。
- 5 消防機械器具の整備保全に関すること。
- 6 土地及び建物の管理並びに備品及び物品の出納保管に関すること。
- 7 公印の管守に関すること。
- 8 その他、他の課に属さない事務に関すること。

警防課

- 1 火災等の警戒及び防御に関すること。
- 2 消防教育及び指導に関すること。
- 3 消防団に関すること。
- 4 消防水利に関すること。
- 5 救助業務に関すること。
- 6 地震等災害の調査に関すること。
- 7 その他警防業務に関すること。

予防課

- 1 火災予防に関すること。
- 2 危険物の規制及び指導取締に関すること。
- 3 液化石油ガス及び高圧ガスの規制及び指導取締に関すること。
- 4 火薬類の規制及び指導取締に関すること。
- 5 建築物確認の同意及び消防用設備等の設置指導等に関すること。
- 6 火災の原因及び損害並びに報告及び統計に関すること。
- 7 消防対象物の立入検査及び指導に関すること。
- 8 女性防火クラブ及び少年幼年消防クラブの育成指導に関すること。
- 9 その他予防業務に関すること。

救急指令課

- 1 救急業務に関すること。
- 2 消防通信の運用、統制及び記録に関すること。
- 3 関係機関との通信連絡に関すること。
- 4 その他通信業務に関すること。

基準消防力と現有消防力の比較

人 口 78,108人(令和元年整備計画)

市街地人口 13,282人(令和元年整備計画)

車 両

種 別	基 準 台 数	現 有 台 数	過 不 足
消 防 ポ ン プ 自 動 車	8	9	1
は し ご 自 動 車	1	1	0
化 学 消 防 車	1	1	0
救 助 工 作 車	2	2	0
指 揮 車	3	3	0
救 急 車	7	8	1
合 計	22	24	2

人 員

	基準台数等に対する基準人員	現 有 人 員	過 不 足
警 防 要 員 { 消 防 隊 員 救 急 隊 員 救 助 隊 員 指 揮 隊 員	150	80	-70
予 防 要 員	24	11	-13
警防要員をもって充てる予防要員の数	5	10	5
通 信 要 員	7	13	6
そ の 他 の 要 員	8	16	8
合 計	184	120	-64

署・団消防機械配置状況

中 署	種別	水槽付ポンプ車	普通ポンプ車	化学車	ポンプ付屈折梯子車	救助工作車
	台数	1	1	1	1	1
	種別	小型動力ポンプ付水槽車	高規格救急車	指揮車	資材運搬車	連絡車
	台数	1	3	2	1	5
	種別	小型動力ポンプ	重機輸送車	広報車		
	台数	2	1	1		
北 署	種別	水槽付ポンプ車	救助工作車	指揮車	大型水槽付消防ポンプ車	
	台数	1	1	1	1	
	種別	高規格救急車	資材運搬車	連絡車	小型動力ポンプ	
	台数	2	1	2	2	
西 署	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	指揮車	連絡車(軽)	
	台数	1	1	1	1	
	種別	資材運搬車				
	台数	1				
坂 下	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	連絡車(軽)		
	台数	1	1	1		
加 子 母	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	加子母連絡車		
	台数	1	1	1		
蛭 川	種別	水槽付ポンプ車	高規格救急車	蛭川広報車(軽)		
	台数	1	1	1		
消 防 本 部 全 車 両	種別	水槽付ポンプ車	普通ポンプ車	化学車	ポンプ付屈折梯子車	救助工作車
	台数	6	2	1	1	2
	種別	小型動力ポンプ付水槽車	大型水槽付消防ポンプ車	高規格救急車	指揮車	資材運搬車
	台数	1	1	8	4	3
	種別	連絡車	連絡車(軽)	広報車	重機搬送車	小型動力ポンプ
	台数	8	3	1	1	4
	消防本部		車両	41	小型動力ポンプ	4

種 別	所 属	普通ポンプ車	消防輸送車	指令車 (その他車両)	小型動力ポンプ
団	団 本 部	0	0	0	0
	中 津 分 団	5	7	0	9
	苗 木 分 団	2	5	0	7
	坂 本 分 団	4	5	0	8
	落 合 分 団	2	5	0	6
	阿 木 分 団	2	4	0	5
	神 坂 分 団	2	3	0	5
	山 口 分 団	1	2	0	3
	坂 下 分 団	3	5	1	6
	川 上 分 団	1	3	0	4
	加 子 母 分 団	3	7	1	8
	付 知 分 団	4	5	1	6
	福 岡 分 団	5	5	1	9
	蛭 川 分 団	3	4	0	6
	計	37	60	4	82

消 防 吏 員 配 置 状 況 (令和7年12月31日現在)

階 級 所 属		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
		消 防 本 部	消防長	1					
	次 長		1						1
	消防総務課		1	2	2	1	2	10	18
	警防課		1	2	3	1	1	3	11
	予防課		1	1	4	1	2	3	12
	救急指令課		1	3	3	2	2	3	14
	合 計	1	5	8	12	5	7	19	57
消 防 署 ・ 分 署	中消防署		1	(8)	(12)	(5)	(7)	(19)	52(51)
	坂下分署			2	2	1	1	2	8
	北消防署		1	4	3	2	3	6	19
	加子母分署			2	2	1	1	2	8
	西消防署		1	4	3	1	4	6	19
	蛭川分署			1	3	1	1	2	8
	合 計		3	21	25	11	17	37	114
消防吏員合計		120							

※()内は、中消防署員と消防本部員の兼務数

消防吏員階級別年齢調（令和7年12月31日現在）

階級別 年令	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	計
18歳							2	2
19歳							2	2
20歳							4	4
21歳								
22歳							3	3
23歳							6	6
24歳							4	4
25歳							3	3
26歳							4	4
27歳							4	4
28歳						2	3	5
29歳						1	1	2
30歳						4		4
31歳						1		1
32歳						4		4
33歳						2		2
34歳							1	1
35歳					1	1		2
36歳						1		1
37歳					2	1		3
38歳					2			2
39歳					3			3
40歳				1	1			2
41歳				1	1			2
42歳					1			1
43歳				3				3
44歳				3				3
45歳				2				2
46歳								
47歳				2				2
48歳				4				4
49歳			1	5				6
50歳			5					5
51歳		1	6					7
52歳		1	2					3
53歳		1	1					2
54歳								
55歳		3	3					6
56歳		2						2
57歳			1					1
58歳			1					1
59歳								
60歳	1							1
61以上				5				5
計	1	8	20	26	11	17	37	120
平均年齢	60.0	54.1	52.1	48.8	38.6	31.6	24.0	38.3

消防吏員勤続年数調（令和7年12月31日現在）

階級別 年数	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	計
1年未満							5	5
1年以上							6	6
2 "							4	4
3 "							5	5
4 "							5	5
5 "						1	4	5
6 "						1	2	3
7 "							2	2
8 "						2		2
9 "						2	4	6
10 "						1		1
11 "					1	3		4
12 "					2	2		4
13 "						3		3
14 "					1	1		2
15 "					2	1		3
16 "					2			2
17 "				1	2			3
18 "								
19 "		1	1					2
20 "			4	3	1			8
21 "					1			1
22 "				3				3
23 "								
24 "				4				4
25 "				1				1
26 "								
27 "				1				1
28 "				1				1
29 "			1	3				4
30 "		1	2	3				6
31 "		2	5					7
32 "		1	4					5
33 "			1					1
34 "		1						1
35 "								
36 "		2	1					3
37 "								
38 "								
39 "			1					1
40 "								
41 "	1							1
42 "				1				1
43 "				4				4
計	1	8	20	25	12	17	37	120
平均勤続年数	41.0	31.1	29.0	19.8	15.5	10.6	3.5	14.9

消防吏員諸手当支給状況

区分	休日給手当	時間外勤務手当	夜間勤務手当	特殊勤務手当	
支給額	隔日勤務者の 1勤務7時間45分 (1時間あたりの給 与額の135/100)	1時間あたりの 給与額の 125/100 (5:00~22:00) 150/100 (22:00~5:00)	1日3時間 1時間あたりの 給与額の 25/100	消防吏員で水火災現場 救急業務(救命士を除く。) 等のため出勤した職員 1出場:350円 消防吏員で救命士として 救急業務のため出勤した職員 1出場:500円	仮眠時間内 の出勤につ いては時間 外勤務手当 に準ずる

消防吏員特殊技術資格所有者調

資格		階級別		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
		大型	中型								
運転免許	大型	1	6	19	22	9	14	10	81		
	中型		2	2	2	2	3	7	18		
救急業務資格者		1	8	21	25	11	17	36	119		
救急救命士		1	3	6	9	7	8	13	47		
薬剤投与救命士		1	3	6	9	7	8	5	39		
挿管救命士		1	1	6	8	6	6	1	29		
第3級陸上特殊無線技士		1	8	21	25	11	17	36	119		
クレーン		1	8	19	22	4	6	5	65		
玉掛け		1	8	18	22	4	6	5	64		
小型船舶操縦士		1	5	10	16	7	3	1	43		
巻き上げ機			1	3	4	1	1		10		
ロープ高所作業				1	3	3		1	8		
フルハーネス				1	1	2	2	1	7		
小型重機		1	5	11	12	3	6	5	43		
テールゲートリフター					1	3	6	9	19		
足場組立				2	4	2	5		13		
危険物取扱者免許状		1	3	12	23	11	17	36	103		
消防設備士		1					1		2		
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者			4	9	8	3	1	1	26		

消防吏員教養実施状況調(現職)

学校	階級別 科・課程	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計	
消防大学校	トップセミナー									
	上級幹部科									
	幹部研修科				1				1	
	警防科									
	予防科									
	危険物科			1	1				2	
	救急科			1					1	
	救助科		1		1				2	
	火災調査科				1				1	
	危機管理講習会									
県消防学校	初任科	1	8	20	26	11	16	36	118	
	専科	警防科			1	3	4	1		9
		予防科	1	1	2	3				7
		予防査察課程			3	2		1		6
		火災調査科				1		1		2
		救急科	1	7	15	11				34
		救急Ⅱ課程	1	7	14	8				30
		救急標準課程		1	6	18	10	16	36	87
		救助科		2	2	6		1		11
	幹部教育	初級								
		中級								
	特別教育	行政事務科	1							1
		操法指導		3	9	5	2	2	1	22
		らっぱ科								
水難救助			1						1	
はしご車科			1	1	3				5	
特殊災害科		1	1	3				5		
県外	救急救命士東京研修所	1	2	4	8	3	1	2	21	
	"九州研修所				1				1	
	"名古屋研修所		1	1		2	1		5	
	"大阪研修所				1				1	

消防吏員居住地状況調

地区	階級別								計
	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士		
中津		3	6	6	4	8	8	35	
苗木			3	4		2	4	13	
坂本		2	2	3	3	1	5	16	
落合				1		1	1	3	
阿木				2		1		3	
神坂									
山口			2					2	
坂下			2	1	1			4	
川上			2	2				4	
加子母		1	1	1	1		1	5	
付知町		1		3		1	3	8	
福岡	1	1	2	2	2	1	1	10	
蛭川									
市外			1			2	14	17	
合計	1	8	21	25	11	17	37	120	

消防団員報酬表

階級別	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別団員
年間支給額	120,000	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	5,000

消防団員諸手当支給状況

区分	出勤(場)手当
支給額	日額 8,000円 (4時間未満は4,000円)

階級別団員数

(令和7年12月31日現在)

階級別 分団別	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別
団本部	62	1	25	22		3	1	10	
音楽隊	34			1	1	2	3	25	2
ラッパ分団	12			1	7	3	0	1	
中津分団	142			1	5	20	35	50	31
苗木分団	121			1	6	16	19	54	25
坂本分団	118			1	4	17	24	65	7
落合分団	59			1	4	13	14	17	10
阿木分団	91			1	4	15	12	40	19
神坂分団	77			1	3	16	5	35	17
山口分団	40			1	5	4	4	15	11
坂下分団	122			1	8	26	20	36	31
川上分団	44			1	6	2	4	21	10
加子母分団	106			1	15	20	20	30	20
付知分団	141			1	4	42	12	59	23
福岡分団	158			1	4	42	19	76	16
蛭川分団	87			1	4	19	11	44	8
合計	1,414	1	25	37	80	260	203	578	230

消防団長

(令和7年12月31日現在)

歴代	氏名	在職年数	在職年月日
中津川市消防団 七代	桂川 邦俊	3年9ヶ月	令和4年 4月 1日 ~

消防団員教育実施状況表

学校	教育訓練の種別	R5,1,1~R5,12,31	R6,1,1~R6,12,31	R7,1,1~R7,12,31	
消防学校	基礎教育		4		
	機関科		4	5	
	幹部教育	初級幹部科	27	34	27
		指揮幹部科現場指揮課程	5		
		指揮幹部科分団指揮課程	4	5	3
	特別教育	指導員科	5	5	5
大規模災害対応教育		3	5	4	

消防団員動続年数調

(令和7年12月31日現在)

分団別	年数								計
	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上		
団本部			7	8	3	12	32		62
音楽隊	6	4	10		4	2	6		32
ラッパ分団				1	3	4	4		12
中津分団	32	20	21	21	13	4			111
苗木分団	10	25	17	35	7	2			96
坂本分団	34	33	21	17	5		1		111
落合分団	5	11	11	9	3	10			49
阿木分団	8	21	16	20	5	2			72
神坂分団	8	8	8	13	10	10	3		60
山口分団	4	6	9	4	5		1		29
坂下分団	8	16	14	26	13	13	1		91
川上分団	5	4	10	9	3	2	1		34
加子母分団	7	19	19	24	13	4			86
付知分団	6	25	22	30	29	6			118
福岡分団	14	42	39	30	16	1			142
蛭川分団	8	29	27	9	5	1			79
機能別団員	103	73	29	25					230
計	258	336	280	256	137	73	49		1,414

年齢別消防団員数調

(令和7年12月31日現在)

年齢	階級別								計
	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別	
20歳未満							5	8	13
20歳							7	5	12
21歳							8	3	11
22歳							6	5	11
23歳							10		10
24歳							11		11
25歳							12	2	14
26歳							11	2	13
27歳							22		22
28歳							25	2	27
29歳						2	25		27
30歳							17		17
31歳					1	1	22		24
32歳						3	29	3	35
33歳					1	4	26		31
34歳						5	26	2	33
35歳					3	3	22		28
36歳					2	11	34		47
37歳					4	12	30		46
38歳					10	15	29		54
39歳					11	17	36	2	66
40歳					7	24	26	1	58
41歳				1	12	23	27	3	66
42歳				1	25	21	14		61
43歳				1	25	10	11		47
44歳				2	26	13	16		57
45歳			1	8	36	8	12	4	69
46歳				4	24	9	6	2	45
47歳			2	13	30	6	6	4	61
48歳			2	12	13	4	9	7	47
49歳			4	11	9	3	9	5	41
50歳			6	9	5		2	6	28
51歳		1	4	3	4	4	1	6	23
52歳		3	4	7	3	2	4	10	33
53歳		1	5	1	2	1	1	8	19
54歳			1		3		1	8	13
55歳		1	1	2			2	9	15
56歳		2	2	2		2	3	15	26
57歳		4	2	1	1		2	6	16
58歳		1	1	1				8	11
59歳		3					1	6	10
60歳以上		1	9	2	1	3	12	88	116
計		17	44	81	258	206	578	230	1,414
平均年齢									41.4

消防団員表彰

表彰の種類		年 別	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総理府賞勲局	藍 綬 褒 章		1	2	1	2
消防庁長官表彰	特 別 功 労 章					
	顕 功 章					
	功 績 章					
	功 労 章					
	永年勤続功労章		3	5	8	7
日本消防協会会長表彰	功 績 章		4	2	2	2
	精 績 章		6	6	6	6
	勤 続 章		10	8	5	5
	特 別 表 彰 (天皇陛下即位記念)					
	特 別 表 彰(まとい)					
岐阜県知事表彰	特 別 功 労 章				1	
	永年勤続功労章		14	16	16	13
	勤 続 功 労 章		16	16	16	15
	功 労 章		63	69	62	60
	消防団員優秀家族章		21	32	5	5
岐阜県消防協会会長表彰	表 彰 薦					
	功 績 章		101	69	104	103
	勤 労 章 20 年		34	39	37	37
	勤 労 章 15 年		25	80	25	25
中津川市長表彰	勤 続 15 年		32	23	80	26
	賞 詞 (操法)			5	6	5
中津川市消防協会会長表彰	功 績 章		67	73	123	59
	勤 労 10 年		88	95	21	93
中津川市消防団長表彰	勤 労 5 年		43	31	85	27

岐阜県消防操法大会出場分団一覧表

回	年月日	開催地	出場分団	順位	種別
28	S 54.08.05	萩原町	中津第3部 坂下町第1分団第1部	5	自動車ポンプ
29	S 55.08.03	谷汲村	中津第3部 加子母村第3分団第10班	7 準優勝	小型動力ポンプ
30	S 56.08.02	山岡町	中津第3部		自動車ポンプ
31	S 57.08.08	羽島市	阿木第4部	7	小型動力ポンプ
32	S 58.08.07	武儀町	中津第2部 坂下町第2分団第2部		自動車ポンプ
33	S 59.08.05	古川町	阿木第4部 加子母村第2分団第4班	6 準優勝	小型動力ポンプ
34	S 60.08.04	海津町	中津第4部 福岡消防団		自動車ポンプ
35	S 61.08.03	福岡町	阿木第4部 福岡消防団	6 準優勝	小型動力ポンプ
36	S 62.08.02	高富町	中津第1部 坂下町第1分団第1部		自動車ポンプ
37	S 63.08.07	美濃市	阿木第4部 加子母村本部班	7 3	小型動力ポンプ
38	H 01.08.06	高山市	坂本第3部 福岡消防団		自動車ポンプ
39	H 02.08.05	安八町	坂本第3部 加子母村第1分団第3班	準優勝 4	小型動力ポンプ
40	H 03.08.04	多治見市	中津第1部 福岡消防団	準優勝 4	自動車ポンプ
41	H 04.08.09	岐阜市	阿木第1部 福岡消防団	5	小型動力ポンプ
42	H 05.08.01	美濃加茂市	中津第3部 福岡消防団	4	自動車ポンプ
43	H 06.08.07	久々野町	中津第3部 福岡消防団	準優勝	小型動力ポンプ
44	H 07.08.06	大垣市	神坂第3部 福岡消防団	3	自動車ポンプ
45	H 08.08.04	中津川市	中津第1部 加子母村本部班	準優勝 6	小型動力ポンプ
46	H 09.08.03	各務原市	神坂第3部 福岡消防団	準優勝	自動車ポンプ
47	H 10.08.02	明宝村	落合第1部 加子母村第1分団第1班	優勝	小型動力ポンプ
48	H 11.08.01	上宝村	神坂第3部 加子母村第3分団第9班	9	自動車ポンプ
49	H 12.07.30	養老町	中津第4部 福岡消防団		小型動力ポンプ
50	H 13.08.05	瑞浪市	中津第4部 川上村消防団	6	自動車ポンプ
51	H 14.08.04	本巣町	神坂第3部 福岡消防団	優勝 7	小型動力ポンプ
52	H 15.08.03	関市	落合第1部 坂下町第2分団第1部	10	自動車ポンプ
53	H 16.08.01	下呂市	中津第4部 福岡消防団	優勝 5	小型動力ポンプ
54	H 17.08.07	垂井町	中津第3部 川上村消防団	9 7	自動車ポンプ
55	H 18.08.06	土岐市	福岡消防団第4分団	8	小型動力ポンプ
56	H 19.08.05	笠松町	中津川消防団落合分団		自動車ポンプ
57	H 20.08.03	富加町	中津分団		小型動力ポンプ
58	H 21.08.02	飛騨市	坂下分団	中止	自動車ポンプ
59	H 22.08.01	揖斐川町	福岡分団	6	小型動力ポンプ
60	H 23.08.07	恵那市	坂下分団	4	自動車ポンプ
61	H 24.08.05	羽島市	神坂分団	7	小型動力ポンプ
62	H 25.08.04	可児市	坂下分団	3	自動車ポンプ
63	H 26.08.03	白川村	福岡分団	11	小型動力ポンプ
64	H 27.08.02	海津市	坂下分団	3	自動車ポンプ
65	H 28.08.07	多治見市	中津分団	優勝	小型動力ポンプ
66	H 29.08.06	瑞穂市	中津分団	7	自動車ポンプ
67	H 30.08.05	郡上市	坂下分団	準優勝	小型動力ポンプ
68	R 01.08.04	高山市	落合分団	15	自動車ポンプ
69	R 02.08.01	神戸町	大会中止		小型動力ポンプ
70	R 03.08.01	中津川市	大会中止		自動車ポンプ
71	R 04.08.07	山県市	落合分団	8	小型動力ポンプ
72	R 05.08.06	岐阜県消防学校	坂本分団	準優勝	自動車ポンプ
73	R6.10.27	岐阜県消防学校	福岡分団	10	小型動力ポンプ
74	R7.10.26	岐阜県消防学校	坂本分団	3	自動車ポンプ

幼年消防クラブ加入状況

幼年に、消防研修を行い、火に対する正しいしつけを身につけさせ、各園、各家庭からの火災の軽減を図るとともに、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人として素地をかん養することを目的として、昭和57年5月10日に中津川市幼年消防クラブを設立した。

地区別	加入幼稚園・保育園	構成数	クラブ員数(人)
中津地区	杉の子幼稚園	1	190
	南さくら幼稚園	1	90
	にしこまの森	1	61
	東さくら保育園	1	49
加子母地区	市立加子母こども園	1	25
福岡地区	市立福岡保育園	1	42
	市立下野保育園	1	19
	市立高山保育園	1	14
計		8	490

女性防火クラブ状況

女性防火クラブは、防火に対する知識を習得するとともに家庭における火災予防に努め、災害の無い平和で豊かな郷土の建設に寄与することを目的とし、我が家から火災を出さないことを念頭に各14地区別に女性防火クラブを設立した。

地区別	事務開始年月日	構成数	クラブ員数(人)
中津西地区	昭和41年12月20日	1	23
中津東地区	平成21年 6月18日	1	18
苗木地区	昭和39年 4月 1日	1	14
坂本地区	昭和42年 4月 1日	1	24
落合地区	昭和42年 2月24日	1	21
阿木地区	昭和42年 4月 1日	1	24
神坂地区	昭和42年 4月 1日	1	8
坂下地区	昭和41年 4月 1日	1	12
川上地区	昭和41年 4月 1日	1	11
加子母地区	昭和28年12月 1日	1	20
付知町地区	昭和40年11月 1日	1	11
福岡地区	昭和41年 4月 1日	1	15
蛭川地区	昭和42年11月15日	1	27
山口地区	平成17年2月13日	1	11
計		14	239

少年消防クラブ加入状況

少年に対して、明朗で活発な気風を養い、併せて火災予防の普及及び一般防火思想の向上を図り、少年の教育に寄与することを目的に地域別に少年消防クラブを設立した。

地区別	設立年月日	構成数	クラブ員数(人)
中津地区(西七区)	昭和55年11月16日	1	13
加子母地区(加子母中学校)	昭和40年 9月 1日	1	12
福岡地区(福岡中学校)	昭和38年 4月 1日	1	154
計		3	179

通信施設現勢表

種別											
消防用無線デジタル	基地局	固定局	消防本部(中署)	北消防署	西消防署	坂下分署	加子母分署	蛭川分署	市民病院	計	
	5	4	9							9	
	移動局	車載									
		39	17	10	4	2	2	3	1	39	
		携帯									
45		27	9	7	4	4	4		55		
	可搬型										
	3										
	卓上型										
	7										
電話市外局番(0573)	中消防署										
	災害専用 119										
	一般加入 通信指令室 消防総務課 予防課 警防課 66-1119 66-1174 66-1619 66-1194 66-1207										
	救急指令課 FAX 66-2039 65-5390										
	坂下分署										
	一般加入 FAX 70-0119 70-0120										
	北消防署										
	一般加入 FAX 76-0119 72-4179										
	加子母分署										
	一般加入 FAX 79-0119 79-0120										
	西消防署										
	一般加入 FAX 68-5119 68-5099										
	蛭川分署										
一般加入 FAX 45-2634 45-3450											

水利区分 地区	消火栓		防火水槽				
	網掛け部分 地下配管50mm 消火栓	地上式 地下式	40t未満	40t~ 60t 未満	60t~ 100t 未満	100t以上	計
中津地区	526	418 108	5	23 耐16	12 飲耐2 耐10	3 飲耐1 耐2	43
苗木地区	145	138 7	1	7 耐3	2 耐1	0	10
坂本地区	312	249 63	5	7 耐3	1 耐1	0	13
落合地区	81	79 2	2	2 耐1	1 耐1	0	5
阿木地区	88 (2)	86 2	3	2 耐0	0	1	6
神坂地区	19	19 0	1	6 耐6	0	0	7
山口地区	116 (2)	116 0	20	23 耐18	2 耐1	0	45
馬籠地区	70	69 1	4	14 耐11	4 耐1	1 耐1	23
坂下地区	278 (15)	271 7	9	35 耐5	1	0	45
川上地区	58 (1)	58 0	2	10 耐4	0	0	12
加子母地区	133 (8)	130 3	7	33 耐3	0	0	40
付知地区	434 (6)	432 2	2	13 耐3	6 耐3	1	22
福岡地区	440 (25)	430 10	9	30 耐9	0	0	39
蛭川地区	345	327 18	1	7 耐1	1	0	9
合計	3045 (59)	2822 223	71	212 耐83	30 飲耐2 耐18	6 飲耐1 耐3	319 飲耐3 耐104 非耐 212

※「飲耐」は飲料水兼用耐震性貯水槽

「耐」は耐震性貯水槽

加子母地区の50mm消火栓については、配管内径が50mmで口金は65mmである

2 予 防 統 計

地区別危険物製造所等の数

製造所等の別 署・地区別		製造所	貯 蔵 所						取 扱 所				合 計	
			屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油		販 売		一 般
										営 業 用	自 家 用			
中 消 防 署	中 津 地 区		18	10	7	18		15	0	8	6		16	98
	苗 木 地 区		3		1	5		4	1	3			3	20
	落 合 地 区		4			3			1	2	1		3	14
	神 坂 地 区					3							1	4
	坂 下 地 区		3	6		6		4		2			4	25
	川 上 地 区					1								1
	山 口 地 区			2						1				3
北 消 防 署	加 子 母 地 区		2	1		6		2	1	3	1		1	17
	付 知 町 地 区			4		3		1		2	1		4	15
	福 岡 地 区			5	2	7		1		5			4	24
西 消 防 署	坂 本 地 区	3	24	9	4	5		13	2	5	6		15	86
	阿 木 地 区			8	2			2		1			1	14
	蛭 川 地 区		3	1	5	3		4		1	1		3	21
計		3	57	46	21	60	0	46	5	33	16	0	55	342

危険物製造所等の数並びに施設指導状況

製造所等の別 署・指導別		製造所	貯 蔵 所						取 扱 所				合 計	
			屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油		販 売		一 般
										営 業 用	自 家 用			
中 消 防 署	施 設 数		28	18	8	36		24	2	16	7		27	166
	査 察 件 数		24	14	8	33		25	2	15	7		26	154
	違反指摘票発送件数		3		1	3		13		4			4	28
	通知書発送件数		3		1	3		13		4			4	28
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0
北 消 防 署	施 設 数		2	10	2	16		4	1	10	2		9	56
	査 察 件 数		2	9	1	10		5		9	1		8	45
	違反指摘票発送件数		1	4	1	1							1	8
	通知書発送件数		1	4	1	1							1	8
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0
西 消 防 署	施 設 数	3	27	18	11	8		19	2	7	7		19	121
	査 察 件 数	1	27	10	9	9		13	2	5	8		15	99
	違反指摘票発送件数		3		2	2		1	1	1	3		1	13
	通知書発送件数		3		2	2		1	1	1	3		1	13
	警告書発送件数													0
	命令書発送件数													0

危険物製造所等の各署許可・検査状況

製造所等の別 署・許可・検査別		製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所				合 計	
			屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油		販 売		一 般
										営 業 用	自 家 用			
中 消 防 署	設 置 許 可						1		1				2	
	変 更 許 可		1		2		1		2				6	
	水 張 検 査												0	
	水 圧 検 査												0	
	完 成 検 査		1		2		2		4				9	
北 消 防 署	設 置 許 可												0	
	変 更 許 可								1				1	
	水 張 検 査												0	
	水 圧 検 査												0	
	完 成 検 査								1				1	
西 消 防 署	設 置 許 可	2					1						3	
	変 更 許 可								2	1		14	17	
	水 張 検 査												0	
	水 圧 検 査												0	
	完 成 検 査	1	1				2		2	1		12	19	

危険物仮貯蔵所その他届出状況

区 分	中消防署	北消防署	西消防署	合 計
危険物仮貯蔵・取扱承認申請書	0	0	1	1
危険物製造所等廃止届出書	2	1	2	5
危険物製造所等品名等変更届出書	5	0	6	11
危険物製造所等譲渡引渡届出書	0	0	1	1
危険物製造所等仮使用承認申請書	3	1	14	18
危険物保安監督者選解任届出書	15	1	12	28
危険物製造所等休止再開届出書	0	0	2	2

火薬類取締法に基づく許可件数

月 別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
許 可 (煙火打ち上げ件数)	中消防署					1		6	2	1	1			11
	北消防署							4						4
	西消防署			1				2						3
合 計		0	0	1	0	1	0	12	2	1	1	0	0	18

高圧ガス保安法(施設件数)

	1種製造所	2種製造所	1種貯蔵所	特定消費施設	計
中消防署	8	6	2	4	20
北消防署	0	2	0	0	2
西消防署	5	1	7	10	23
計	13	9	9	14	45

液化石油ガス法(販売事業者数)

	販売事業者	保安機関	設備工事事業者
中消防署	10	10	10
北消防署	4	4	4
西消防署	3	3	3
計	17	17	17

各種届出の状況

届出別	署別	中消防署	北消防署	西消防署	合計
防火対象物使用開始届		41	7	23	71
消防計画作成・変更届		112	35	39	186
防火管理者選任・解任届		88	18	28	134
消防用設備着工届		42	9	29	80
消防用設備設置届		126	39	98	263
消防用設備特例適用承認申請		9	0	2	11
消防用設備等点検結果報告書		645	383	290	1,318
防火対象物点検結果報告書		31	10	18	59
防火対象物特例認定申請書		2	0	1	3
炉・厨房設備・ボイラー等の設置届		7	1	5	13
発電・変電・蓄電池設等置届		15	5	7	27
煙火の打ち上げ又は仕掛の届		4	0	5	9
少量危険物等貯蔵取り扱い届		6	6	18	30
指定可燃物等貯蔵取り扱い届		2	0	3	5
圧縮アセチレンガス等貯蔵取り扱い届		46	3	18	67

工事別建築同意件数表

署・工事別		月 別												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中消防署	新 築	56	8	2	4	3	5	6	6	4	4	2	5	7
	増 築	0												
	改 築	2								1		1		
	用途変更	0												
北消防署	新 築	4				1			1		1	1		
	増 築	0												
	改 築	0												
	用途変更	0												
西消防署	新 築	31	1	4	4		3		4	3	3	3	5	1
	増 築	1										1		
	改 築	0												
	用途変更	0												
計		94	9	6	8	4	8	6	11	8	8	8	10	8

地区別建築同意件数表

署・地区別		月 別												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
中消防署	中津地区	49	6	2	4	1	4	5	6	4	4	2	4	7
	苗木地区	2						1					1	
	落合地区	4				2	1			1				
	神坂地区	0												
	坂下地区	2	2											
	川上地区	0												
	山口地区	1										1		
北消防署	加子母地区	2									1	1		
	付知町地区	2				1			1					
	福岡地区	0												
西消防署	坂本地区	31	1	4	4		3		4	3	3	4	4	1
	阿木地区	0												
	蛭川地区	1											1	
計		94	9	6	8	4	8	6	11	8	8	8	10	8

建築物用途別同意件数表

用途別		消防署別			
		中消防署	北消防署	西消防署	合計
1	イ 劇場・映画館等				0
	ロ 公会堂・集会所等				0
2	イ キャバレー・カフェー等				0
	ロ 遊技場、ダンスホール				0
	ハ 性風俗関連特殊営業店舗等				0
3	イ 待合・料理店等				0
	ロ 飲食店等				0
4	百貨店・マーケット等	5	1	3	9
5	イ 旅館・ホテル等			1	1
	ロ 共同住宅・寄宿舎等	2		4	6
6	イ 病院・診療所・助産所	2			2
	ロ 老人短期入所・老人ホーム	1		1	2
	ハ 保育園・盲学校等	1			1
	ニ 幼稚園・特別支援学校				0
7	小・中・高・大学校等	1		1	2
8	図書館・美術館等				0
9	イ 蒸気浴場・熱気浴場等				0
	ロ イ以外の公衆浴場				0
10	車両の停車場等				0
11	神社・寺院・教会等	1			1
12	イ 工場・作業場	3	2	4	9
	ロ 映画スタジオ等				0
13	イ 自動車車庫・駐車場			1	1
	ロ 飛行機の格納庫等				0
14	倉庫	4		3	7
15	前各項に該当しない事業所	4		4	8
16	イ 特定複合用途防火対象物	2	1		3
	ロ イ以外の複合用途防火対象物				0
17	文化財等				0
18	アーケード				0
専用住宅		22		6	28
併用住宅					0
その他		10		4	14
合計		58	4	32	94

3 火災統計

火災概況

火災件数	損害額	焼損床面積	焼損表面積	林野焼失面積	死者	負傷者
18	8,409	290	142	80	0	3

火災覚知別件数

覚知番号		建物(住)	建物(他)	林野	車両	船舶	その他	計
1	専用—固定1	1	2	1	0	0	0	4
2	専用—固定2	0	0	0	0	0	0	0
3	専用—携帯	3	2	1	0	0	6	12
4	加入—固定	0	0	0	0	0	0	0
5	加入—携帯	0	0	0	0	0	0	0
6	警察電話	0	0	0	0	0	0	0
7	駆けつけ	0	0	0	0	0	0	0
8	事後聞知	1	1	0	0	0	0	2
9	その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	5	5	2	0	0	6	18

※固定1はNTT加入以外

地域別件数表

	火 災 種 別											
	建物火災		林野火災		車両火災		船舶火災		その他火災			
											件数	損害額
	件数合計	損害額合計	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額
中津	5	4,021	4	4,021	0	0	0	0	0	0	1	0
苗木	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
坂本	4	21	2	11	0	0	0	0	0	0	2	10
落合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
阿木	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
神坂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山口	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
坂下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川上	1	529	1	529	0	0	0	0	0	0	0	0
加子母	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
付知町	1	3,758	1	3,758	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
蛭川	2	80	0	0	1	80	0	0	0	0	1	0
中央道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	18	8,409	10	8,319	2	80	0	0	0	0	6	10

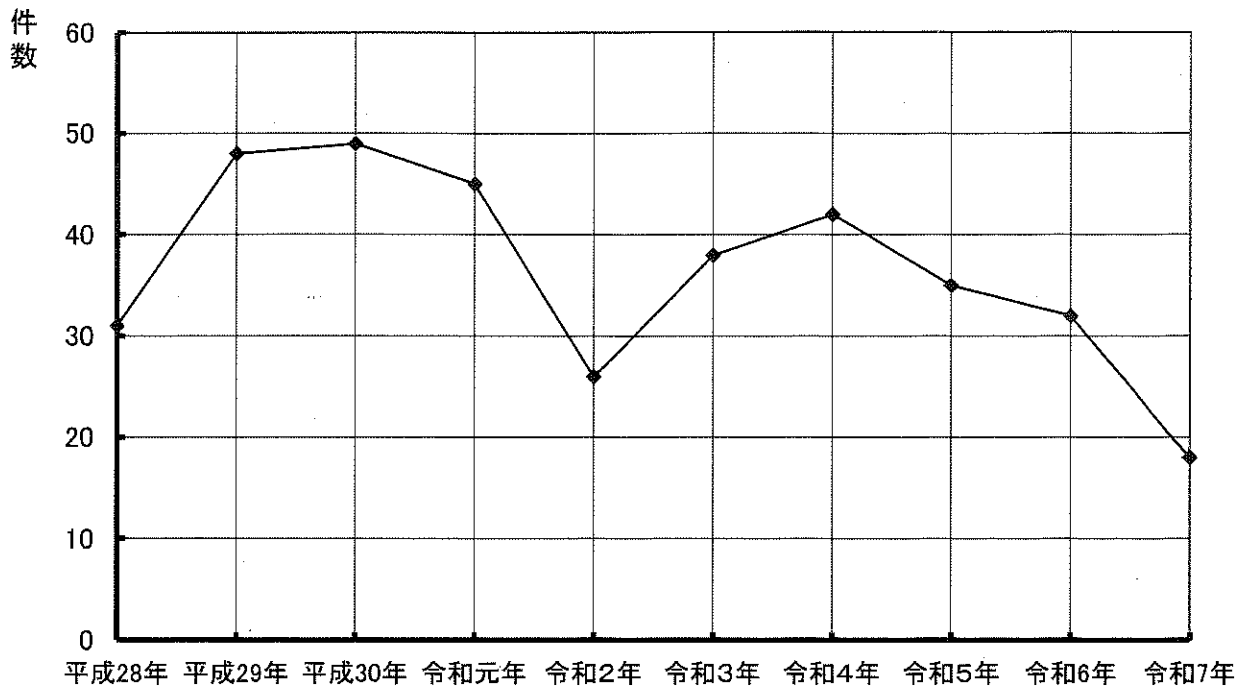
(損害額単位:千円)

月別件数及び損害額表

(単位：千円)

月	建物						林野			車両		船舶		その他	
	件数	損害額	件数	床面㎡	表面㎡	損害額	件数	焼失面積a	損害額	件数	損害額	件数	損害額	件数	損害額
1	1	2,382	1	0	0	2,382	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3	6	2,139	4	41	0	2,139	0	0	0	0	0	0	0	2	0
4	2	3,798	2	249	142	3,798	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	2	80	0	0	0	0	1	12	80	0	0	0	0	1	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	2	0	1	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	18	8,409	10	290	157	8,319	2	12	80	0	0	0	0	6	10

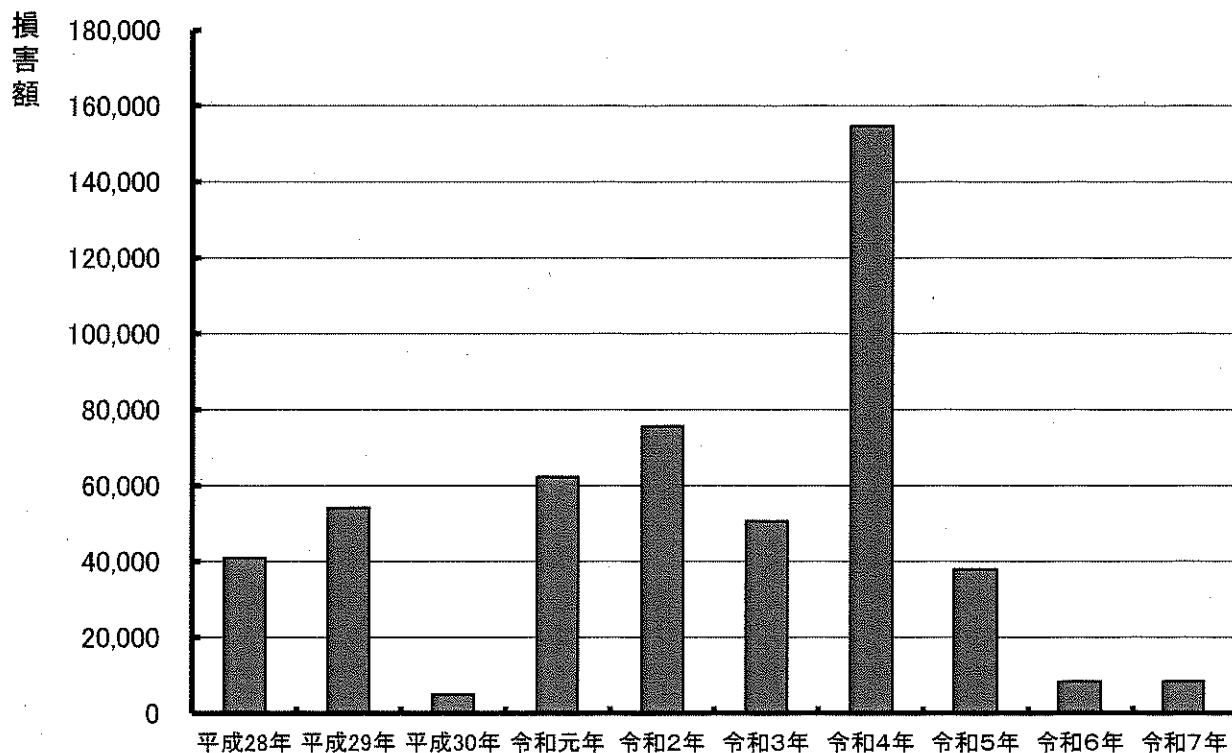
過去10年間の火災発生件数



	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
件数	31	48	49	45	26	38	42	35	32	18

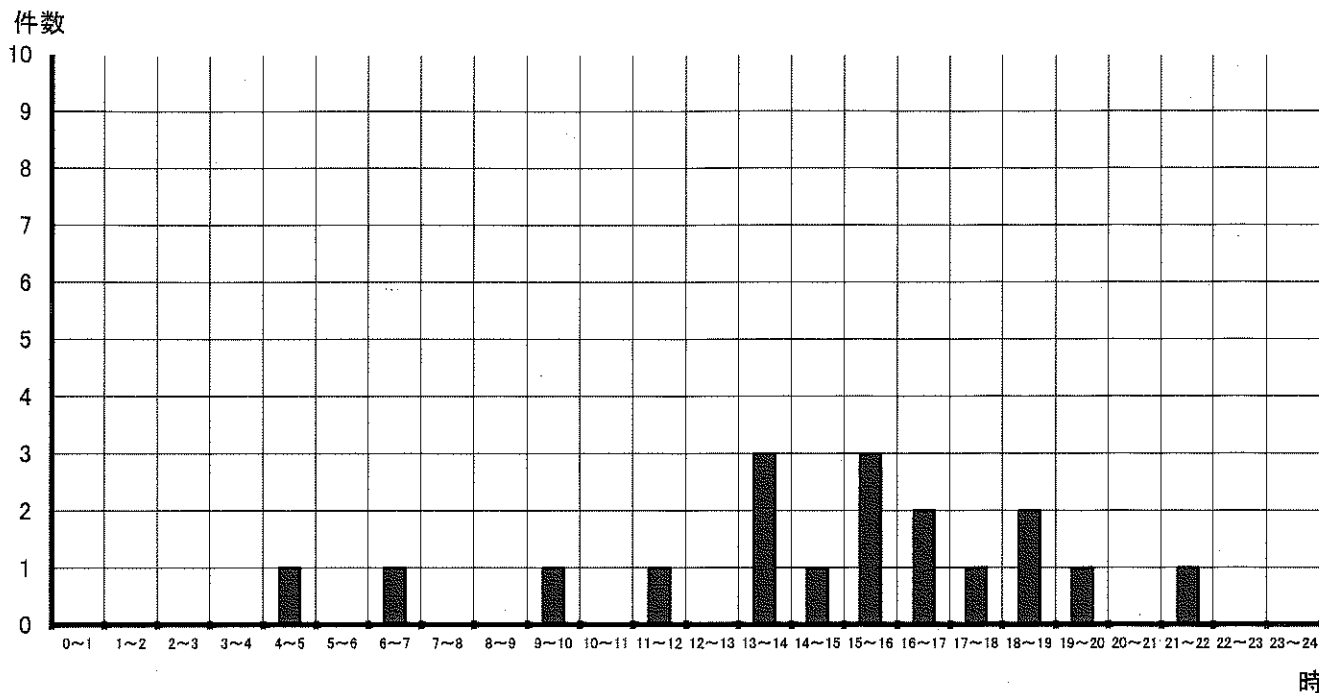
過去10年間の火災損害額状況表

(単位:千円)



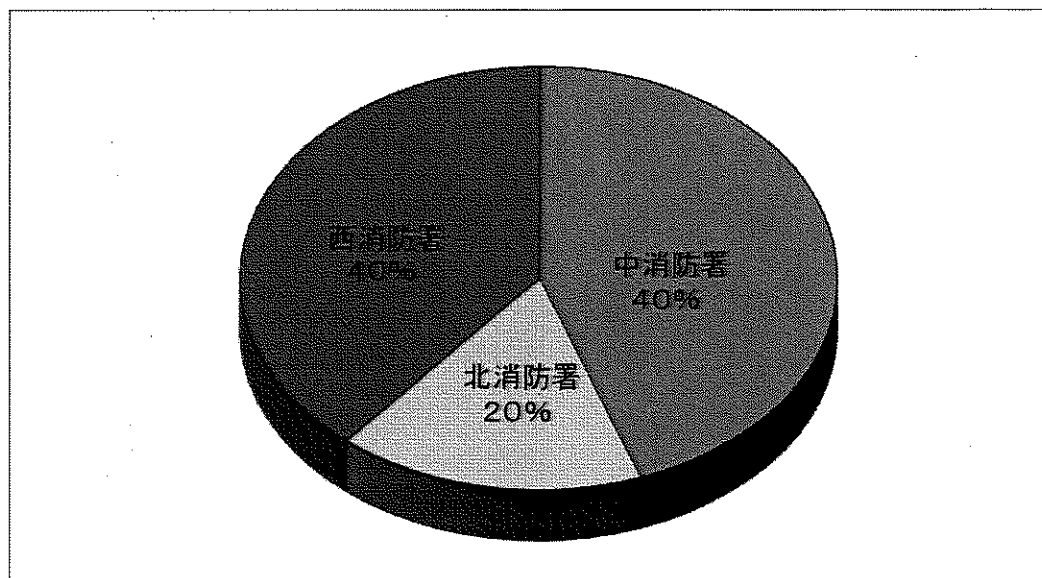
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
損害額	40,961	54,223	4,981	62,337	75,692	50,691	154,724	38,023	8,342	8,409

時間別火災発生件数



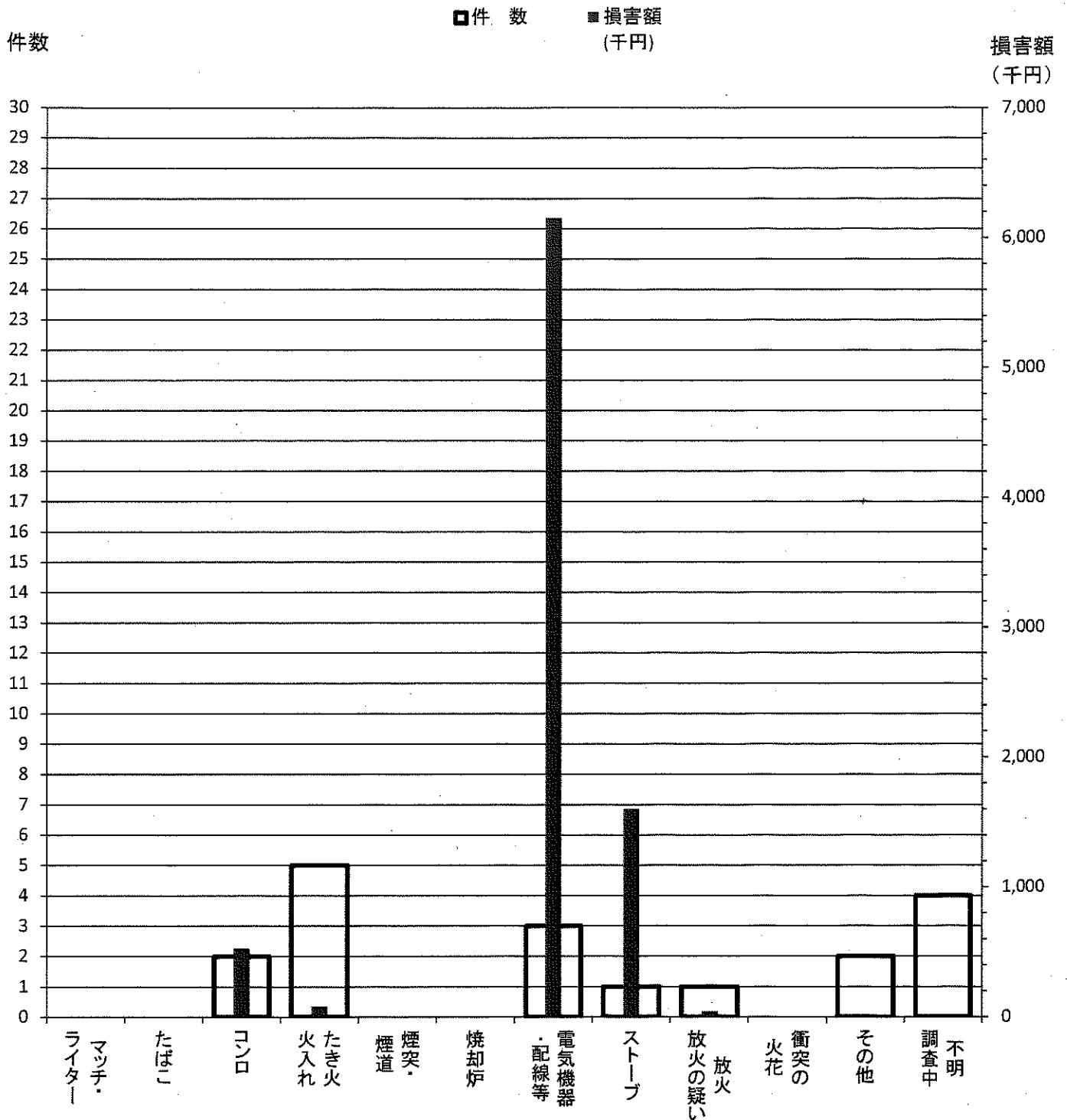
時間	0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22	22~23	23~24	不明	計
件数	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	3	1	3	2	1	2	1	0	1	0	0	0	18

署別火災件数



中消防署	北消防署	西消防署
8件	3件	7件

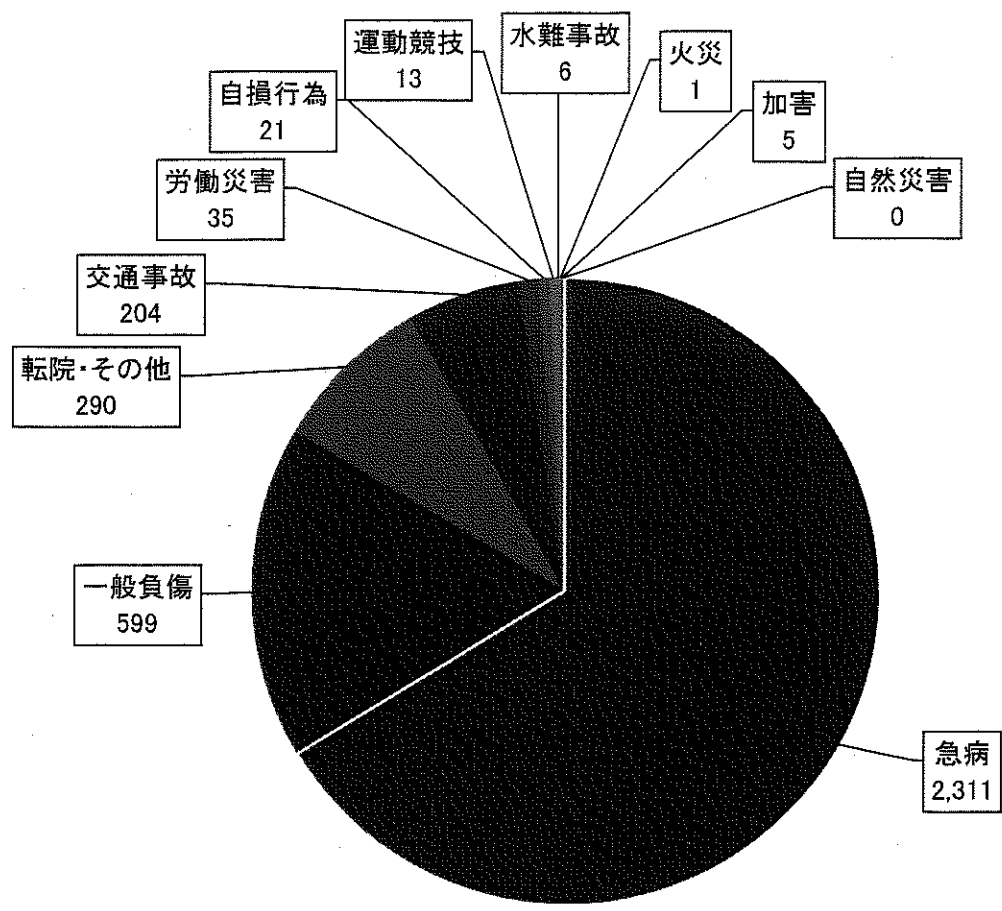
出火原因別件数及び損害額



原因別	マッチ・ライター	たばこ	コンロ	たき火 火入れ	煙突・煙道	焼却炉	電気機器・配線等	ストーブ	放火の疑い 放火	衝突の火花	その他	不明 調査中	合計
件数	0	0	2	5	0	0	3	1	1	0	2	4	18
損害額 (千円)	0	0	529	80	0	0	6,150	1,599	40	0	0	11	8,409

4 救急救助統計

救急種別出場件数



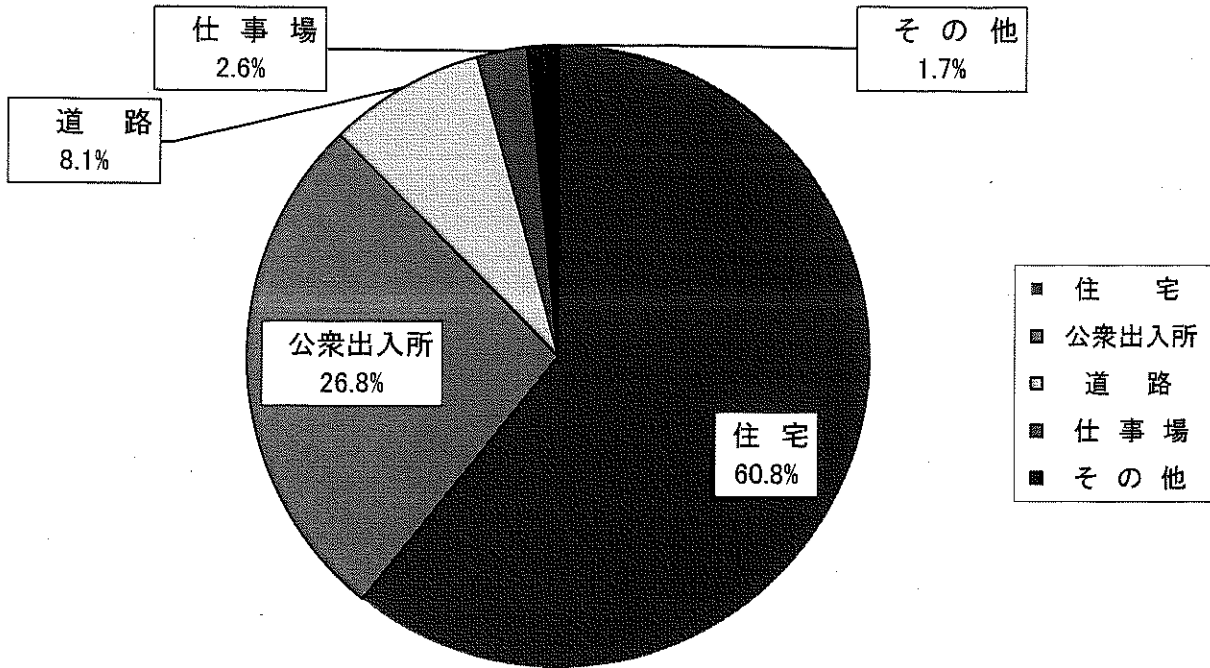
令和7年

救急出場件数 3,485件

救急搬送人員 3,219人

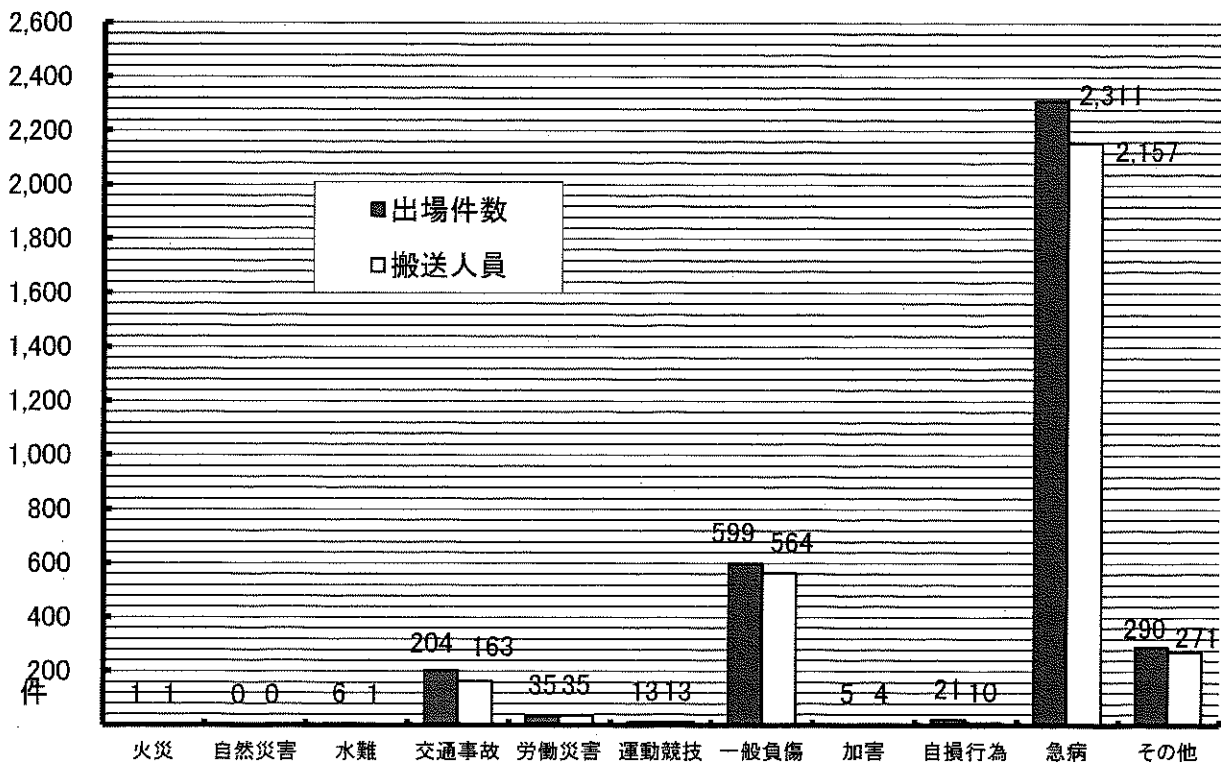
急病	一般負傷	転院・その他	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	水難事故	火災	加害	自然災害
2,311	599	290	204	35	21	13	6	1	5	0

救急事故発生場所別搬送人員



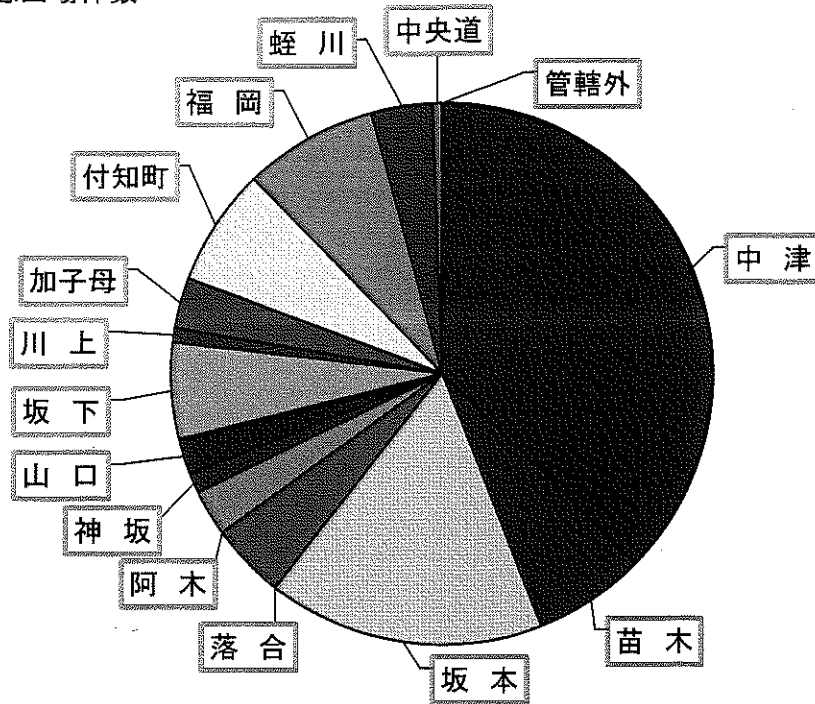
	住宅	公衆出入所	道路	仕事場	その他	合計
搬送人員	1,956	863	262	84	54	3,219

救急事故種別出場・搬送件数及び搬送人員



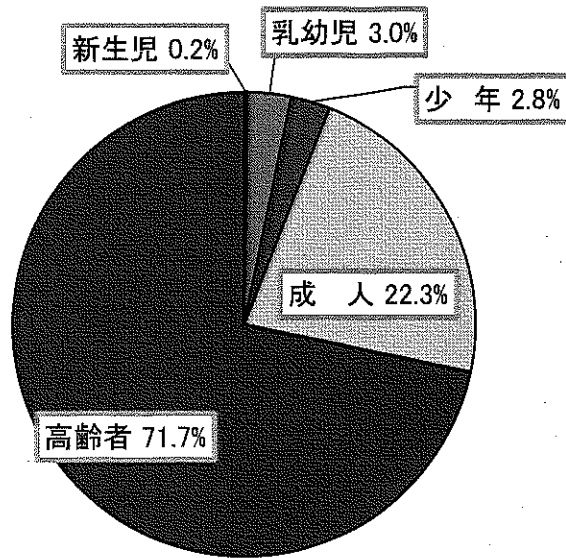
	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
出場件数	1	0	6	204	35	13	599	5	21	2,311	290	3,485
搬送人員	1	0	1	163	35	13	564	4	10	2,157	271	3,219

地区別救急出場件数



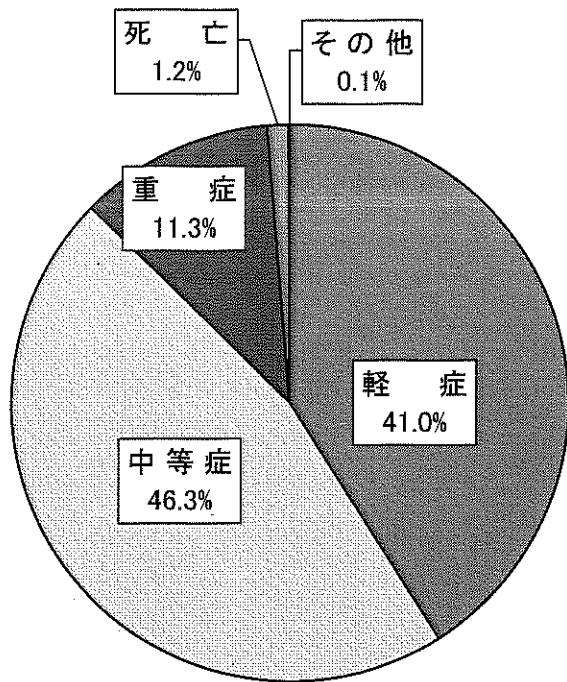
地区	中津	苗木	坂本	落合	阿木	神坂	山口	坂下	川上	加子母	付知町	福岡	蛭川	中央道	管轄外	合計
件数	1,301	234	575	157	95	42	74	199	30	105	246	279	128	19	1	3,485

年齢別搬送人員



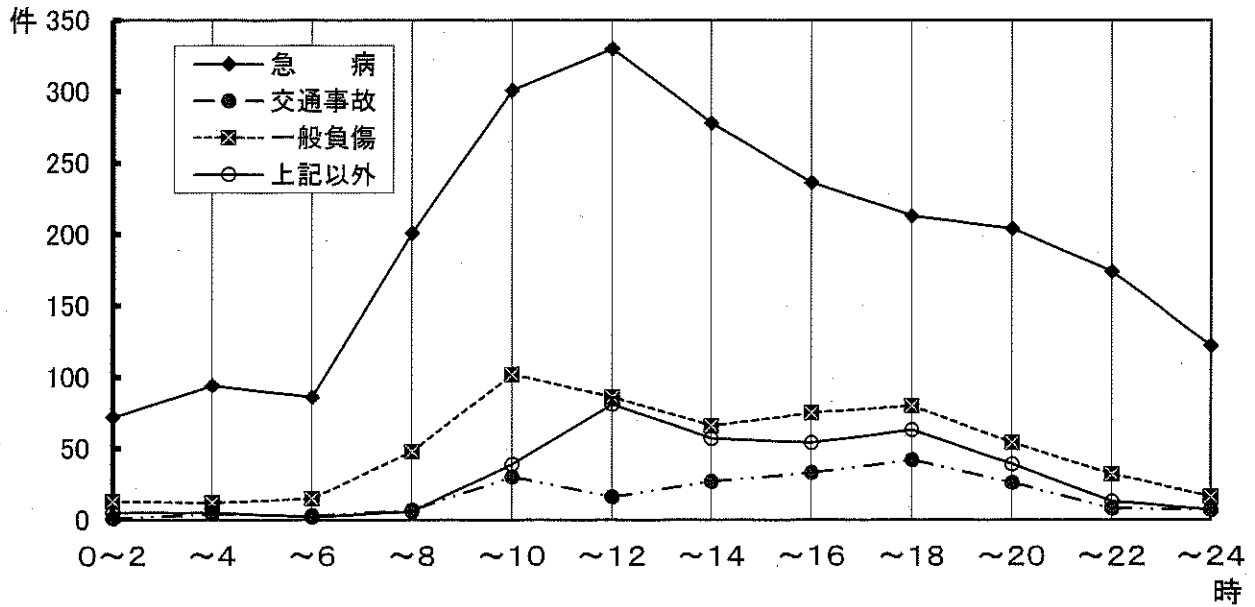
搬送人員	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
	(生後28日以内)	(生後29日~7歳未満)	(7歳以上~18歳未満)	(18歳~64歳)	(65歳以上)	
	7	97	89	718	2,308	3,219

程度別搬送人員



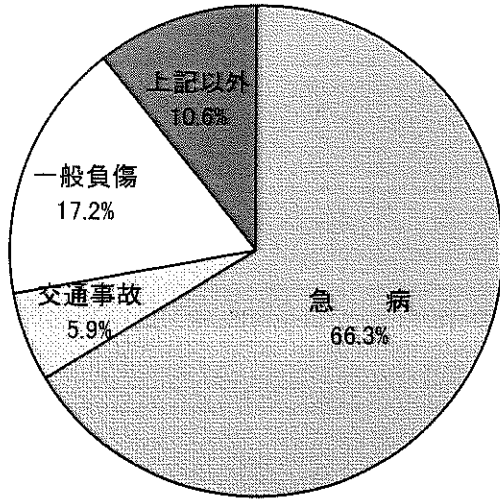
傷病程度	人
軽症	1,320
中等症	1,492
重症	365
死亡	40
その他	2
計	3,219

時間別出場件数



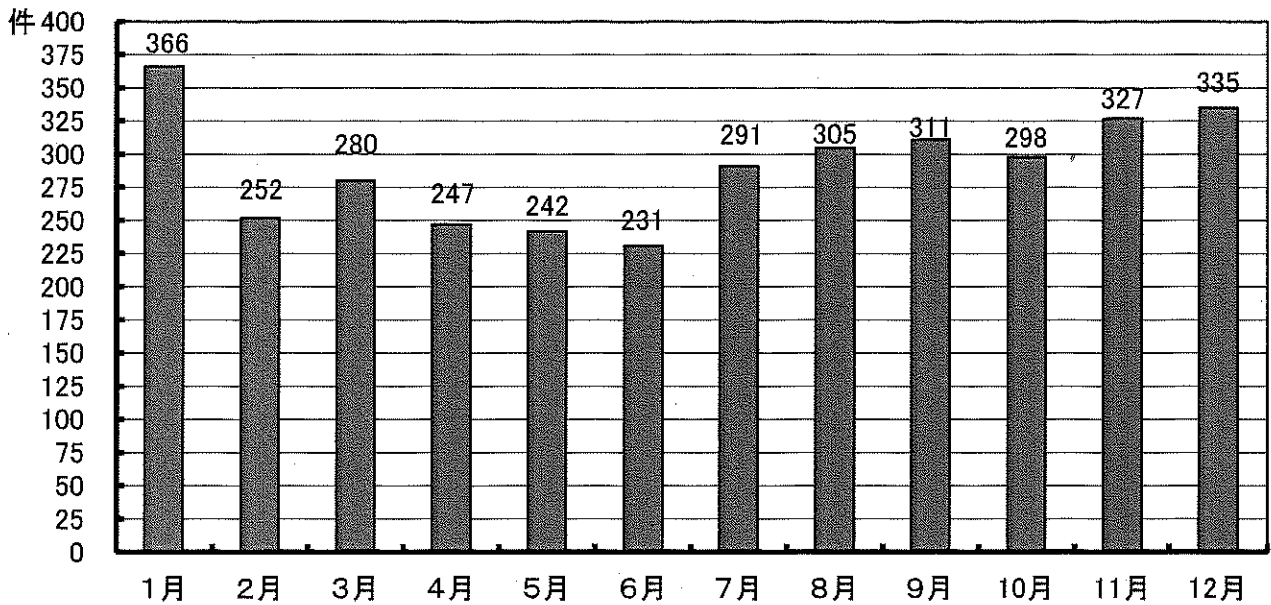
時間帯	0~2	~4	~6	~8	~10	~12	~14	~16	~18	~20	~22	~24
急病	72	94	86	201	301	330	278	236	213	204	174	122
交通事故	1	4	3	7	30	16	27	33	42	26	8	7
一般負傷	13	12	15	48	102	86	66	75	80	54	32	16
上記以外	5	5	2	6	39	81	57	54	63	39	13	7

救急件数の事故種別及び割合



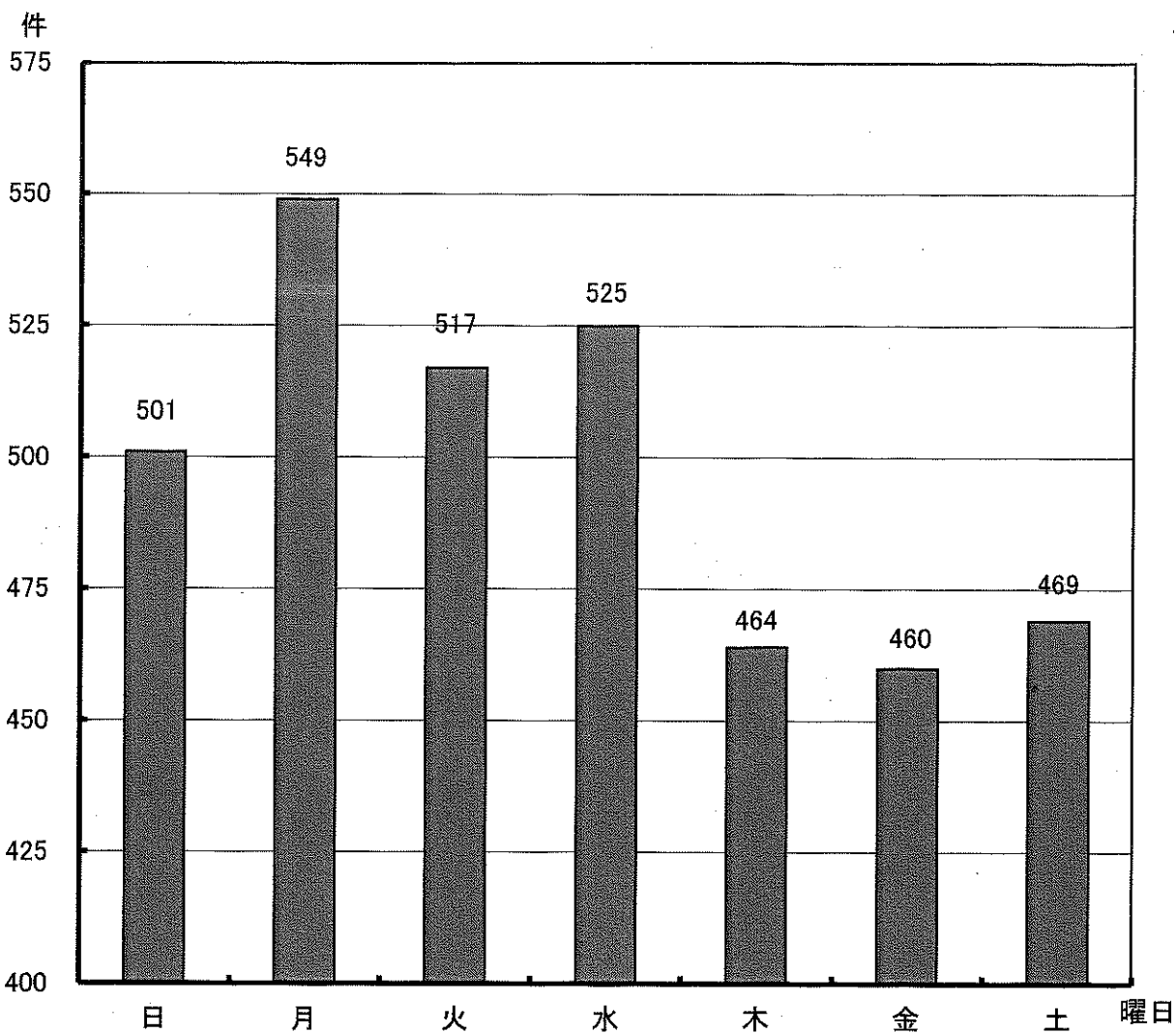
事故種別	件	計
急病	2,311	3,485
交通事故	204	
一般負傷	599	
上記以外	371	

月別救急出場件数



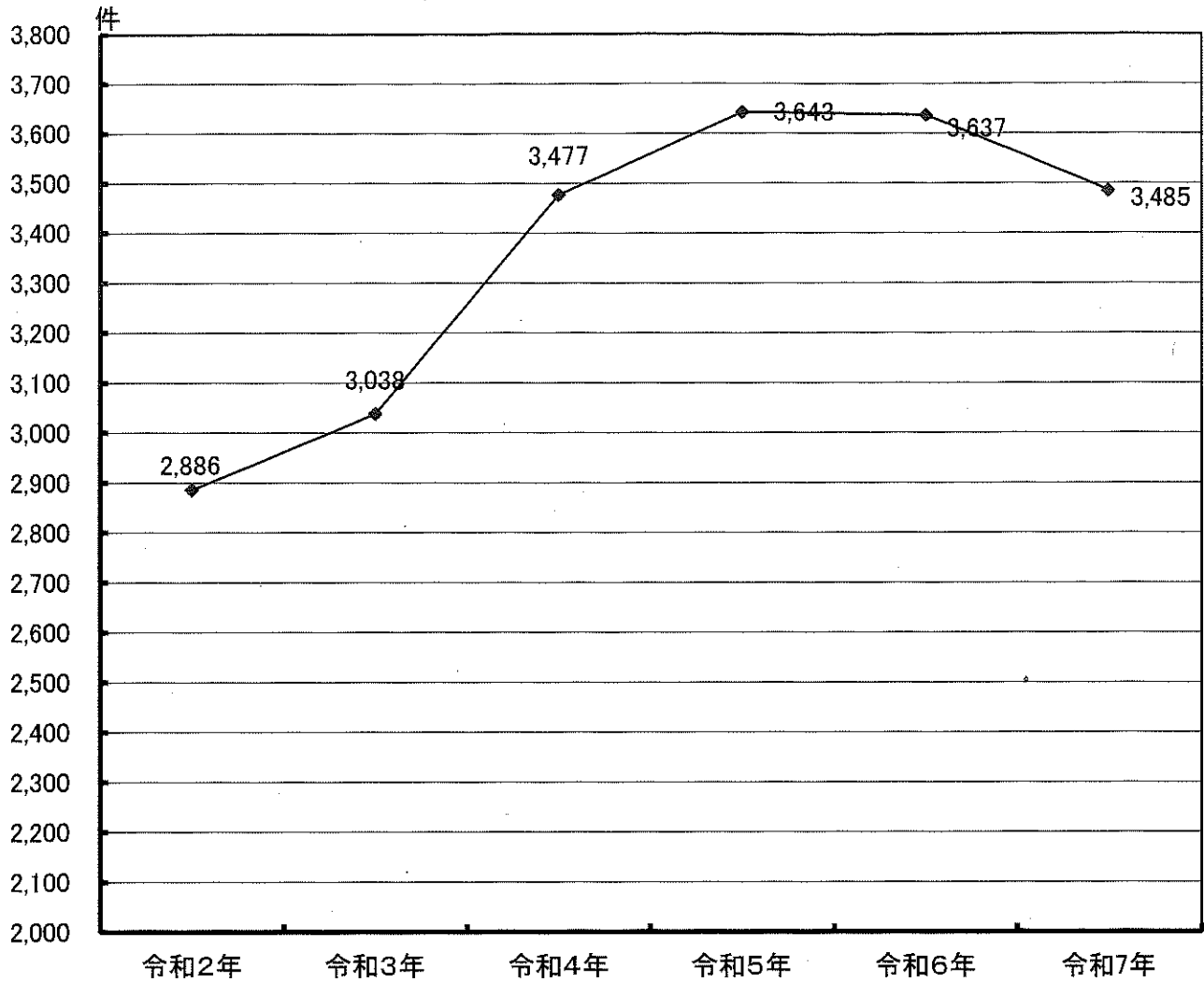
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火災												1	1
自然災害													
水難事故					1		3	1	1				6
交通事故	15	5	18	22	8	15	15	19	22	17	29	19	204
労働災害	2	1	4	3	5	1	5	2	4	1	6	1	35
運動競技		1	1	1	1		4	1	2	2			13
一般負傷	61	41	51	38	42	39	46	45	47	54	60	75	599
加害	2	1									2		5
自損行為	3	1	3	1	2		3	1	1	2	2	2	21
急病	256	181	171	161	157	155	184	214	221	197	202	212	2,311
その他	27	21	32	21	26	21	31	22	13	25	26	25	290
合計	366	252	280	247	242	231	291	305	311	298	327	335	3,485

曜日別救急出場件数



	日	月	火	水	木	金	土	合計
火災		1						1
自然災害								
水難事故		1		1		1	3	6
交通事故	21	38	35	33	30	29	18	204
労働災害	1	6	10	12	3		3	35
運動競技	5	3					5	13
一般負傷	96	96	106	77	71	58	95	599
加害		2	1		1		1	5
自損行為	3	5	2	5	3	1	2	21
急病	353	355	313	349	322	317	302	2,311
その他	22	42	50	48	34	54	40	290
合計	501	549	517	525	464	460	469	3,485

過去5年間の救急出場件数

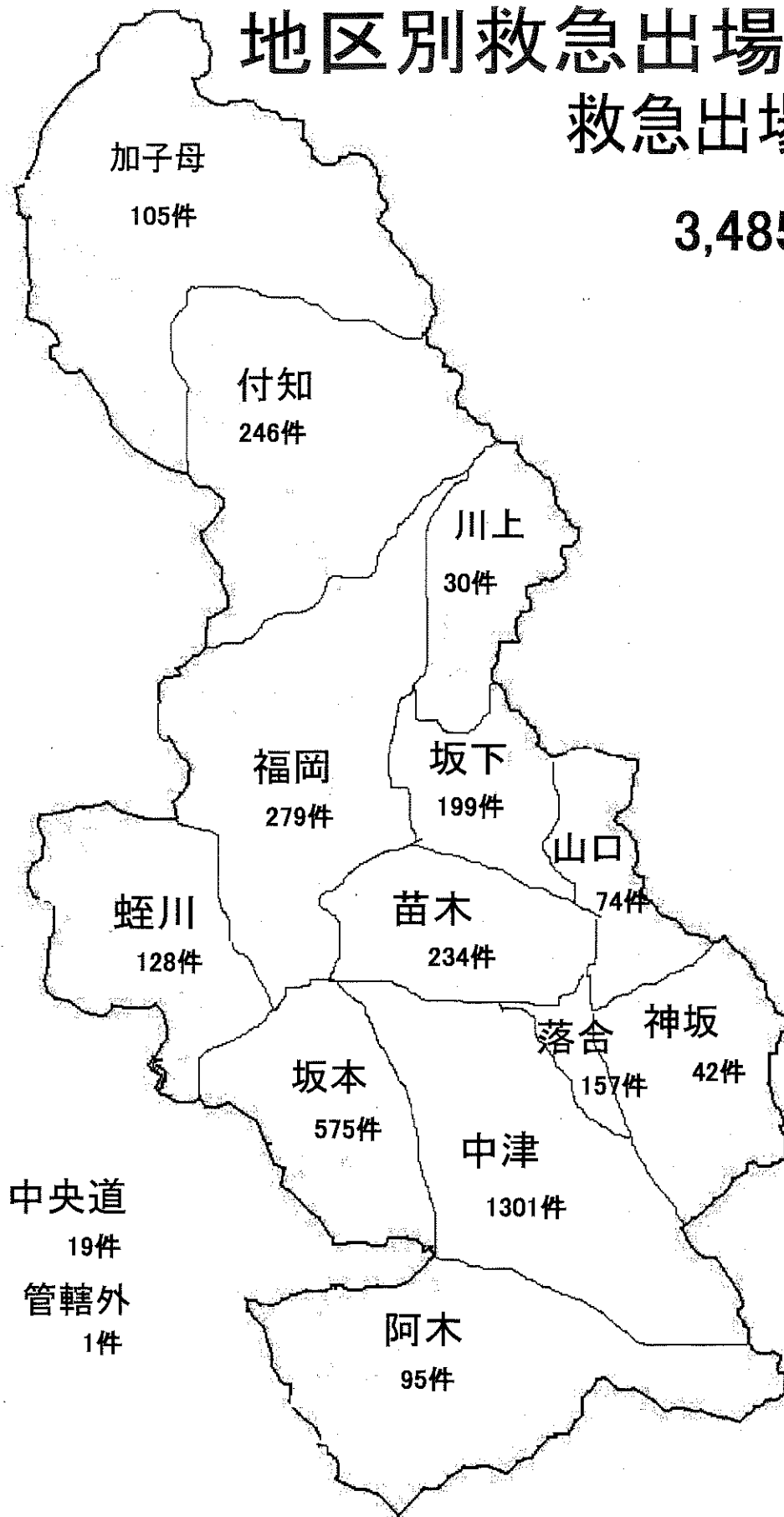


	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
火 災	7	7	14	2	6	1
自然災害						
水難事故	2	9	7	7	11	6
交通事故	187	191	159	199	178	204
労働災害	35	38	51	50	53	35
運動競技	8	10	11	21	20	13
一般負傷	467	515	575	607	585	599
加 害	1	4	5	7	9	5
自損行為	21	26	33	29	30	21
急 病	1,882	1,937	2,169	2,361	2,412	2,311
そ の 他	276	301	453	360	333	290
合 計	2,886	3,038	3,477	3,643	3,637	3,485

地区別救急出場状況

救急出場件数

3,485件



事故種別救助出場・活動件数(R7.01.01～R7.12.31) ※()は活動件数

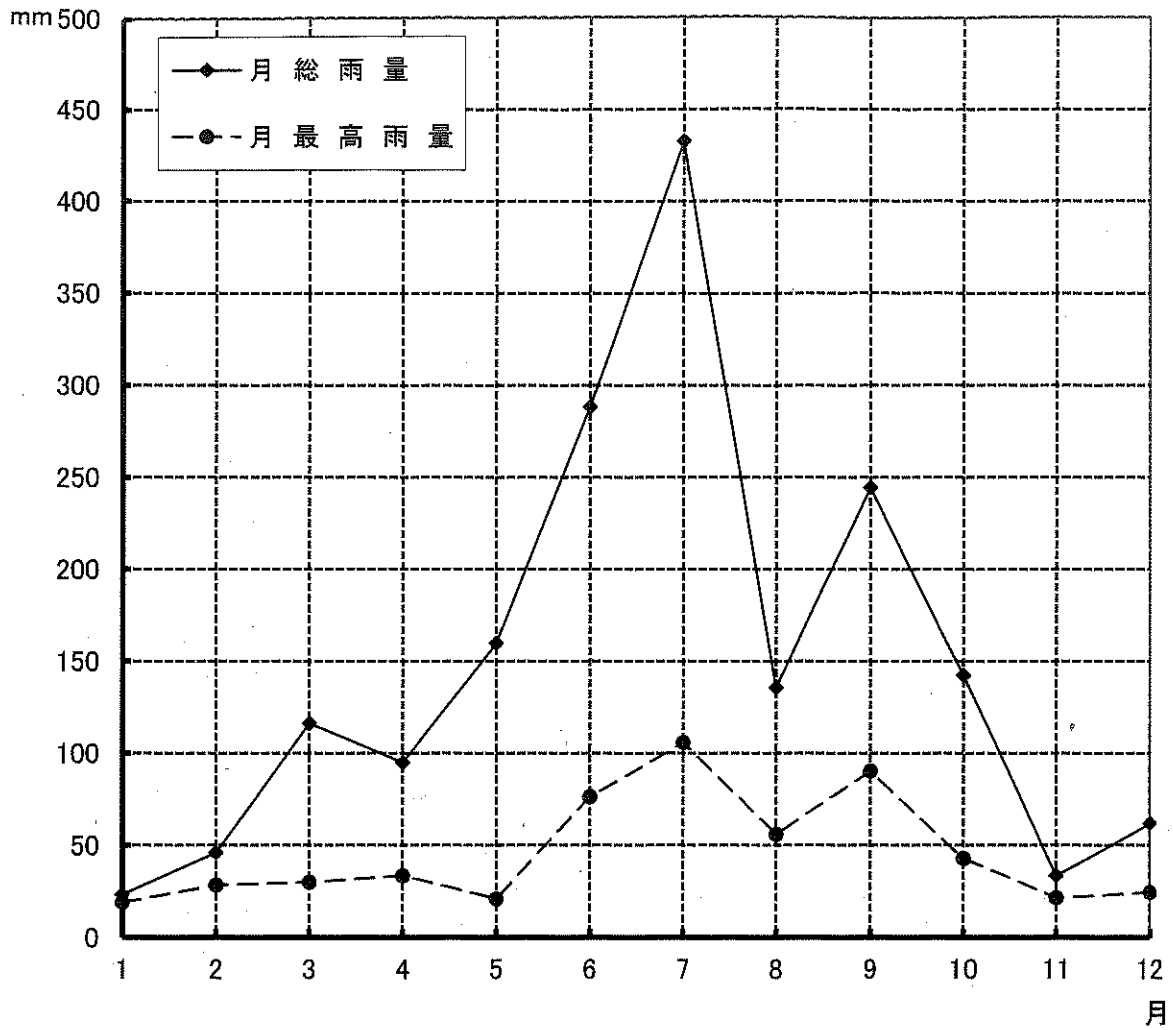
地区	種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
	建物	建物以外										
中津				6 (2)	1 (1)			1			7 (4)	15 (7)
苗木				2 (1)							4 (2)	6 (3)
坂本				3	1 (1)						2 (1)	6 (2)
落合				1 (1)				1 (1)			1 (1)	3 (3)
阿木											1 (1)	1 (1)
神坂											1 (1)	1 (1)
山口									1 (1)			1 (1)
馬籠												0
坂下				3 (1)								3 (1)
川上												0
加子母				1							1	2
付知町				1	3		1 (1)		1 (1)		1 (1)	7 (3)
福岡				5 (2)			1 (1)				3 (2)	9 (5)
蛭川				2							1 (1)	3 (1)
中央道				2 (1)								2 (1)
管轄外												0
合計				26 (8)	5 (2)		2 (2)	2 (1)	2 (2)		22 (14)	59 (29)

主な救助活動

月日	覚知時間	事故種別	事故発生場所	事故概要
3月9日	10:49	その他の事故	高峰山中腹 瀬戸地内山林	山林での滑落事故
4月4日	22:47	交通事故	苗木 国道257号	軽自動車3台が絡む交通事故
4月21日	18:48	機械による事故	高山地内 畑	トラクターの下敷き事故
5月16日	11:25	水難事故	恵那峡大橋上流2キロ付近左岸	溺水事故
5月21日	13:25	その他の事故	飲食店駐車場	子供の車内閉じ込め事故
7月6日	14:50	交通事故	田瀬地内 矢平バス停付近	車で2mの転落事故
8月15日	20:42	交通事故	中津川大橋付近	軽自動車と自転車の接触事故
10月19日	11:20	その他の事故	恵那山 山頂小屋付近	山頂にて右足首骨折疑い
11月17日	8:18	交通事故	上野地内 小野沢バス停付近	乗用車の単独横転事故
12月19日	12:35	その他の事故	阿木地内 山林	山林での転落事故

5 気象統計

月別降雨量統計表



月	区分	降 雨 量 (mm)		
		降雨日数	月総雨量	月最高雨量
1月		4	23.5	19.0
2月		11	46.0	28.5
3月		13	116.5	30.0
4月		11	95.0	33.5
5月		14	160.0	21.0
6月		14	288.5	76.5
7月		15	433.0	106.0
8月		7	136.0	56.0
9月		14	244.5	90.5
10月		14	142.5	43.0
11月		9	33.5	21.5
12月		7	62.0	24.5
計		133	1781.0	年間最高降雨日
月平均		11	148.4	7月15日 106.0

月別気象統計表

区分 月	最高気温 °C	最低気温 °C	平均気温 °C	平均湿度 %	平均風速 m/s	平均風向
1月	12.4	-5.4	2.3	67.0	1.2	南
2月	13.9	-6.7	1.3	65.0	1.5	南
3月	24.3	-2.3	8.0	65.6	1.4	南
4月	27.6	1.7	13.5	62.7	1.6	南
5月	30.6	5.7	18.1	67.8	1.6	西南西
6月	36.1	11.3	23.1	72.2	1.4	南
7月	37.0	18.5	27.0	72.5	1.6	南
8月	37.4	20.2	27.8	69.8	1.6	南
9月	35.4	15.1	24.6	74.2	1.3	南
10月	30.1	3.0	18.0	78.6	1.1	南
11月	20.5	-0.4	9.3	73.4	1.0	南
12月	18.0	-4.6	5.2	73.6	1.1	南
年平均	26.9	4.7	14.9	70.2	1.4	南
参考 単位:°C	年最高気温 8月2日 37.4	年最低気温 2月23日 -6.7				

